門 1曾5
號 947
卷 2-2

文学
雑種
哲学
史学

大正年月日寄贈

文學

水田板

(義)益詩者為訓詠之物、妙在化俗為雅、故其不勝野朴者、不得不
注飾斐雅馴耳、然徂徠南郭輩如改誦訪湖為鴛湖、
号崎城為豊浦、目厘山為驪山、白山為商山、胡乱牽強是
誠何義也、自來好奇之徒、毎其不文陋者、亦強欲擬漢上即
取擅自拙易使人不能解其為何地、楊慕里詩云里名只道
新名好、不道新名誤後人、可見此弊宋人作俑、至明李王
輩謂燕京為長安以便其声調、遂及此方、致豪傑志
名實俱亡、不唯風雅之罪人也云(津坂孝綽夜航詩話)
謝茂秦云、凡作詩須之行雲流水、聴之金声玉振、観之明霞
散綺、講之独繭抽糸、此詩家四妙、便一闕未造、則非佳台
矣(今上)詩、當
(ハ)
(ロ)
(イ)凡物学技藝者、正要而奇出、常極而変生、蓋不則然而然、而
之、銭塵山云、詩到直處如平、平到極處即奇、善哉乎
車投之言曰、直如立、行如行、草如走、来有主能立而能行、未
能行而能走者也云(今上)物、正与奇文ル

(ハ) 苟九方皐之相馬，相之於驪黃牝牡之外，觀詩亦當如是耶。（今上）表面論文之文字見之

(ロ) 附近什於人，書其橋孔也，葉寘其字淨書也，今人有書橋而押印者，何其多解事之甚也。（今上）

(ロ) 輕薄兒好向人自詡其詩，抗声朗吟，舉首搖頭之狀，可憐也。荊郭功甫攜詩一軸，云東坡先生自吟誦聲振左右，既罷，謂坡曰，祥止此詩幾分，東坡曰十分，功甫驚嘆尚之，坡曰七分，來是讀之，豈不是十分耶。予每舉是以語人，凡玉長若宜書以呈之，不可自誦也。（今上）

(ハ) 傳貫休詩，盡日覓之不得，有時還自來，調詩之句，雖得，此直絶妙好辭，人間百事皆爾，宋人所謂著意求之，花不發，無心插柳柳成林，淺也，更事者自默識之耳。（今上）

(ハ) 或人傳一詩謎，何来估客候門前，荊海江陵一季船，更入帳中尋不見，直遣飛鳥去天邊，曰，僕唐詩作家，乃

(ハ) 賈至、李白、羅隱、高適、四人姓名也，然賈氏音譽非高賈之我，云（今上）

(ロ) 李西崖曰，詩話作而詩亡信矣，蓋善詩者不說詩，說詩者不善詩，故古人之詩多有註家所誤，阮裕曰，非但能言人不可得，正索解言之未不可得，唱呼不拙清言也云（今上）

(ロ) 好嘈人之短，以炫己之長，學者之通弊也，宋人詩云，勉老當筵笑郎郎，笑他舞袖太郎當，若教鮑老當筵舞，轉更郎當舞袖長，一作為易言者之鍼砭，程伊川見人論前輩得失，曰，渠輩且取他長處，誠德言也（今上）人之長之拳下

(ハ) 清人李穆堂云，拾人遺篇斷句，而代為存之者，比之葬暴露之白骨，加德更大，此言良厚，詞人嘔出心肝，纔許總得一二不朽之語，同好相愛，不可不厚也，然藏拙蔽臭亦是大功德，晉桓溫少與殷浩友善，殷常作詩示溫，溫後見之，謂曰，汝莫復作此語，我當出汝詩示人，明姚廣孝著道餘錄，議者非之，張洪興曰，少師于我厚，今

水田校

見雨霽虹飛下飲澗水、旧射其字乃、如眇眯得句云、渇虹下飲玉池水、科日横分舊嶺、自謂切景張會先曰、斜字猶未稱渇字、後閲莊子、日方睨衍義当作睨日、衆先曰、渇虹睨日支斉古也

(ロ)　(イ)

詩韻貴穏、韻不穏則不成句、故作詩必避韻險窮力耳、李杜大家不用僻韻、非不能用、乃不屑用也、四溟詩話云詩用難韻、起自六朝、若庾開府長代手中恰、沈東陽、顧言及鮑謝、従此流於艱渋、(全)韓昌黎、柳子厚長篇聯句字難韻険、誇多鬪靡、或沈落之邪、比誠窒宜識観之(全)陰鏗之柳之詩之韻脚如室之基址、室焉而基址不牢、則結構全壮而傾欹不安不得其為家也、倉山居士云、忘足履之適也、忘韻詩之適也、(全)陰鏗之柳之

(ハ)　(ロ)　(イ)

倉浪詩話曰、不必太著題、不必多使事、下字貴響、造語貴自然、意要透徹、不可隔靴搔痒、語貴脱洒、不可拖泥

死矣、吾無以報、但見遺餘録、輒為焚棄耳、余於神氏編亦有富載而不載者、非遺忘、蓋以為詩、茶為滌煩子、酒為忘憂君、又管城子、毛錐子、皆(全)表書之間頁(全)良友也之(全)

(ロ)　(イ)

以子補之(全)

詩一字之用係全句死活、畫龍点睛手段其妙在於隠、故學者每作一篇須典人商榷以求無完言不穏、不可等閑放過也、

(ハ)　(ロ)　(イ)

僧有巳一字之師、又仆翻然天台中子峯、題寺壁曰、絶頂新巴一江水、秋生夜涼露滴夜凄、前峰月照、一江水、僧在峯微聞竹房、既去觀者取筆改一字、為半字、蓋半字亟用、動易之又到題處則已改矣、四嘆曰台州有人、又明楊慎登眺山寺、

水田抜

帯
滞水、最忌雰葉、最忌趁貼、
忌多、直大要不外此兩貴
上（侍／要訣

陸儼山曰、登山渉水之間、專事賦詩、則反礙直樂、大抵江山
勝因目又佳、從江良朋韻士、便當極踈琴眺望之興、四時征
邁下、或日夕追懐所遇、在々在目、然後発之詩文、庶幾各
極其態、而無累矣、此言大好、可謂逍山妙曲、曲江春宴録曰、
握刀擘鳳且俗酒不可過四時、最是沈腰（今上）
東坡與姪書云、凡文字少小時須令気象崢嶸文彩絢爛、漸
老漸熟、乃造平淡、其実不是平淡、乃絢爛之極也、朱子云
文字奇而穏、方好、不奇而穏、只是鬱塞、曰平淡曰穏、言漸
近自然也、然造焉未詳、近見隨園詩話、曰詩宜朴、不宜
巧、然必須大巧之朴、詩宜淡、然必須濃後之淡、
譬如大書人巧成匠乾、散髪解簪、便是名士風流、若
少年紈袴豪奢、富家粉金琢玉、
別有規模、然後位几簟床、北村夫貧相、此能近取譬

無教切実之（今上）細ノ処、活
一聯賦景一聯寓情、最律詩正法、若通篇盡景、欠要
化手段、不善詩矣、李夢陽曰、盡景者意必二洞大者
羊必細、此最律詩三昧、浮雲連海岱、平野入青徐、孤雁
秦碑在、荒城魯殿餘、前景寓月後景感懐也、
唐詩律最厳惟杜変化莫測、亦此訣、亦不可不知也
（今上）律詩ノ処ヲ

謝茂秦曰、霧晩気、軽霞證暮陰、一聯中三見晩意、無乃明
人禮語所謂閑門閉戸掩柴扉一個孤僧獨自歸并
ニテ（今上）重復ノ笑ヲ

用事失処管貽笑不小、故虽嫺熟亦須検看、西清詩話曰、用
事虽ノ在心目間、亦當就時討用、則記牢而不誤、端格言也、
李義山為詩文、座上書冊排比滿前、以資考用、時人謂
之獺祭魚、楊大年為文章、初無檢討、所用故事、常令子弟諸生
掩討出處、每段用紙片録
置之、時人謂之獺祭魚、文既成則粘綴所録而
永叔為文虽至熟故事、

未検歩所。然後下筆、董魯直亦自常言、每作詩文、不厭
捜索、余嘗以為名匠製作、縦手揮毫、取捨腹笥而已、
不如初学、每作一詩文、如得此題之意、務要盡而已、及
見四老子之勤、亦未如為義也、云々（今上）故事ノ探ニ進キ句ヲ
堅之倚裏好華飾、婦人所居楼室施青漆、故謂之青
楼、後世遂以為妓館之稱、云々（今上）青樓ノ所以
下青楼、殆稱妓居之処也、云々（今上）不解
唐人詩、以之解三百篇、真是
何中默識宋人尚不能解
杜事、善哉直言之也、蓋詩主於性情、而宋儒以理說、故
取風人妙義、牽強傳會、唐賢良工苦思、往々埋没屈
笑、其解三百篇、不免於鳧脛之固、不足怪也（今上）実ノ所ヲ得ザルノ言ヒ
邵康節云、富貴如時魁力求、仲尼年少合封侯、世人不解青
天意、空使身心半夜愁、蘇文忠公云、料田治而刈故晴
去得順風来者恕、若使人々禱輒得、造物應須日千
要、云々（今上）思フマヽニナラヌガ世ノ中
程伊川云、夏素不作詩、亦非是孳孳不作、但不欲喜此閑言語耳

水田校

如今痛斧斫詩。無如杜甫、如云雪花映蝶深之見、魚水情疎
疑之飛、如此閑言語、直出做裏、某竹以不嘗作詩、此典吻
合一池春、水干卿何事、同上設趣ノ人、頭巾気似矣、朱子則不
然、編次（今上）設趣ノ
(ハ)楊升菴云、大抵人自情中生、焉能無情、但不過裏而已、天之
風月、地之花柳、無人之歌舞、無此不成三才、善哉更言之
也、何如絶欲忘情、漠然如山佛而後為君子哉、靖節寄
寓東籬有閑情一賦、庸平不可以已哉、今遺学者作、
知更何講也（今上）人誰カ情！カ
夫不能感人之斧事、又不自知熟形機、従事詞藝者之多矣癡
頑、夜郎自大、嘵嘵傲人、頭人許渭魯般門前掉大斧者、
鄙語目為聲不怕蛇、誠可
蛙放之庭池則群蛙不敢鳴、可以人而不如蛩乎（今上）蛩ハ心ナキ
宋人填詞者一代絶藝、猶要之詩也、是之直詩往
々有詞曲之調、学宋詩者須知是聲而避直轍也、

(ハ上) 宋詩ノ弊

(ロ) 文学者自身ガ文学ヲ單ニ想像ノ娯楽トシテ掌握シ之ヲ如何ニ時間ナドノ許ス限リ遠ケテ善ガレノ地位ニ置キ之ヲ研究シテ文学ノ蘊奥ヲ極メ如何ノ業績ヲ挙ゲ大国ヲシテ此ノ如キノ学者アラシメントスルノ意気込ヲ有スルカ如キハ古今ヲ通ジテ殆ンド之ヲ見ルコトヲ得ズ此ノ点ニ於テハ我ガ国ノ文学者ハ西洋ノ文学者ニ比較シテ大ニ劣レリト謂ハザルヲ得ズ(ホ上)此ノ如キハ我ガ国ノ文学ガ未ダ大ニ発達セザルノ証拠ニシテ又我ガ国ノ文学ガ西洋ノ文学ニ比較シテ大ニ劣レルノ証拠ナリ

(ハ) 文学ノ性質ノ異ナルニ従ヒ其研究ノ方法ヲ異ニスルノ必要アリ

(イ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ロ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ニ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ホ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ヘ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ト) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(チ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(リ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ヌ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ル) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ヲ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ワ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(カ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ヨ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(タ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(レ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ソ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ツ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ネ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ナ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ラ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ム) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ウ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ヰ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ノ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(オ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ク) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ヤ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(マ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ケ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(フ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(コ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(エ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(テ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ア) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(サ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(キ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ユ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(メ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ミ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(シ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ヒ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(モ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(セ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ス) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ン) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ハ上) 宋詩ノ弊ハ詩ヲ單ニ想像ノ娯楽トシテ掌握シ之ヲ如何ニ時間ナドノ許ス限リ遠ケテ善ガレノ地位ニ置キ之ヲ研究シテ文学ノ蘊奥ヲ極メ如何ノ業績ヲ挙ゲ大国ヲシテ此ノ如キノ学者アラシメントスルノ意気込ヲ有スルカ如キハ古今ヲ通ジテ殆ンド之ヲ見ルコトヲ得ズ此ノ点ニ於テハ我ガ国ノ文学者ハ西洋ノ文学者ニ比較シテ大ニ劣レリト謂ハザルヲ得ズ(ホ上)此ノ如キハ我ガ国ノ文学ガ未ダ大ニ発達セザルノ証拠ニシテ又我ガ国ノ文学ガ西洋ノ文学ニ比較シテ大ニ劣レルノ証拠ナリ

(ハ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(イ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ロ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ニ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ホ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ヘ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ト) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(チ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(リ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ヌ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ル) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ヲ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ワ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(カ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ヨ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(タ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(レ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ソ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ツ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ネ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ナ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ラ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ム) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ウ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ヰ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ノ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(オ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ク) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ヤ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(マ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ケ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(フ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(コ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(エ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(テ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ア) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(サ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(キ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ユ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(メ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ミ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(シ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ヒ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(モ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(セ) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ス) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

(ン) 文学ハ人心ノ感情ヲ写シ出スモノナルガ故ニ其研究ニ当リテハ人心ノ感情ヲ知ルノ必要アリ

水田板

(雑)

(一)

(二)

(三)

(四)

(五)

(六)

(七)

(八)

(九)

(十)

(十一)

(十二)

(十三)

(十四)

(十五)

(十六)

(十七)

(十八)

(十九)

(二十)

(二十一)

(二十二)

(二十三)

(二十四)

(二十五)

(二十六)

(二十七)

(二十八)

(二十九)

(三十)

(三十一)

(三十二)

(三十三)

(三十四)

(三十五)

(三十六)

(三十七)

(三十八)

(三十九)

(四十)

(四十一)

(四十二)

(四十三)

(四十四)

(四十五)

(四十六)

(四十七)

(四十八)

(四十九)

(五十)

(五十一)

(五十二)

(五十三)

(五十四)

(五十五)

(五十六)

(五十七)

(五十八)

(五十九)

(六十)

(六十一)

(六十二)

(六十三)

(六十四)

(六十五)

(六十六)

(六十七)

(六十八)

(六十九)

(七十)

(七十一)

(七十二)

(七十三)

(七十四)

(七十五)

(七十六)

(七十七)

(七十八)

(七十九)

(八十)

(八十一)

(八十二)

(八十三)

(八十四)

(八十五)

(八十六)

(八十七)

(八十八)

(八十九)

(九十)

(九十一)

(九十二)

(九十三)

(九十四)

(九十五)

(九十六)

(九十七)

(九十八)

(九十九)

(百)

(百一)

(百二)

(百三)

(百四)

(百五)

(百六)

(百七)

(百八)

(百九)

(百十)

(百十一)

(百十二)

(百十三)

(百十四)

(百十五)

(百十六)

(百十七)

(百十八)

(百十九)

(百二十)

(百二十一)

(百二十二)

(百二十三)

(百二十四)

(百二十五)

(百二十六)

(百二十七)

(百二十八)

(百二十九)

(百三十)

(百三十一)

(百三十二)

(百三十三)

(百三十四)

(百三十五)

(百三十六)

(百三十七)

(百三十八)

(百三十九)

(百四十)

(百四十一)

(百四十二)

(百四十三)

(百四十四)

(百四十五)

(百四十六)

(百四十七)

(百四十八)

(百四十九)

(百五十)

(百五十一)

(百五十二)

(百五十三)

(百五十四)

(百五十五)

(百五十六)

(百五十七)

(百五十八)

(百五十九)

(百六十)

(百六十一)

(百六十二)

(百六十三)

(百六十四)

(百六十五)

(百六十六)

(百六十七)

(百六十八)

(百六十九)

(百七十)

(百七十一)

(百七十二)

(百七十三)

(百七十四)

(百七十五)

(百七十六)

(百七十七)

(百七十八)

(百七十九)

(百八十)

(百八十一)

(百八十二)

(百八十三)

(百八十四)

(百八十五)

(百八十六)

(百八十七)

(百八十八)

(百八十九)

(百九十)

(百九十一)

(百九十二)

(百九十三)

(百九十四)

(百九十五)

(百九十六)

(百九十七)

(百九十八)

(百九十九)

(二百)

(二百一)

(二百二)

(二百三)

(二百四)

(二百五)

(二百六)

(二百七)

(二百八)

(二百九)

(二百十)

(二百十一)

(二百十二)

(二百十三)

(二百十四)

(二百十五)

(二百十六)

(二百十七)

(二百十八)

(二百十九)

(二百二十)

(二百二十一)

(二百二十二)

(二百二十三)

(二百二十四)

(二百二十五)

(二百二十六)

(二百二十七)

(二百二十八)

(二百二十九)

(二百三十)

(二百三十一)

(二百三十二)

(二百三十三)

(二百三十四)

(二百三十五)

(二百三十六)

(二百三十七)

(二百三十八)

(二百三十九)

(二百四十)

(二百四十一)

(二百四十二)

(二百四十三)

(二百四十四)

(二百四十五)

(二百四十六)

(二百四十七)

(二百四十八)

(二百四十九)

(二百五十)

(二百五十一)

(二百五十二)

(二百五十三)

(二百五十四)

(二百五十五)

(二百五十六)

(二百五十七)

(二百五十八)

(二百五十九)

(二百六十)

(二百六十一)

(二百六十二)

(二百六十三)

(二百六十四)

(二百六十五)

(二百六十六)

(二百六十七)

(二百六十八)

(二百六十九)

(二百七十)

(二百七十一)

(二百七十二)

(二百七十三)

(二百七十四)

(二百七十五)

(二百七十六)

(二百七十七)

(二百七十八)

(二百七十九)

(二百八十)

(二百八十一)

(二百八十二)

(二百八十三)

(二百八十四)

(二百八十五)

(二百八十六)

(二百八十七)

(二百八十八)

(二百八十九)

(二百九十)

(二百九十一)

(二百九十二)

(二百九十三)

(二百九十四)

(二百九十五)

(二百九十六)

(二百九十七)

(二百九十八)

(二百九十九)

(三百)

(三百一)

(三百二)

(三百三)

(三百四)

(三百五)

(三百六)

(三百七)

(三百八)

(三百九)

(三百十)

(三百十一)

(三百十二)

(三百十三)

(三百十四)

(三百十五)

(三百十六)

(三百十七)

(三百十八)

(三百十九)

(三百二十)

(三百二十一)

(三百二十二)

(三百二十三)

(三百二十四)

(三百二十五)

(三百二十六)

(三百二十七)

(三百二十八)

(三百二十九)

(三百三十)

(三百三十一)

(三百三十二)

(三百三十三)

(三百三十四)

(三百三十五)

(三百三十六)

(三百三十七)

(三百三十八)

(三百三十九)

(三百四十)

(三百四十一)

(三百四十二)

(三百四十三)

(三百四十四)

(三百四十五)

(三百四十六)

(三百四十七)

(三百四十八)

(三百四十九)

(三百五十)

(三百五十一)

(三百五十二)

(三百五十三)

(三百五十四)

(三百五十五)

(三百五十六)

(三百五十七)

(三百五十八)

(三百五十九)

(三百六十)

(三百六十一)

(三百六十二)

(三百六十三)

(三百六十四)

(三百六十五)

(三百六十六)

(三百六十七)

(三百六十八)

(三百六十九)

(三百七十)

(三百七十一)

(三百七十二)

(三百七十三)

(三百七十四)

(三百七十五)

(三百七十六)

(三百七十七)

(三百七十八)

(三百七十九)

(三百八十)

(三百八十一)

(三百八十二)

(三百八十三)

(三百八十四)

(三百八十五)

(三百八十六)

(三百八十七)

(三百八十八)

(三百八十九)

(三百九十)

(三百九十一)

(三百九十二)

(三百九十三)

(三百九十四)

(三百九十五)

(三百九十六)

(三百九十七)

(三百九十八)

(三百九十九)

(四百)

(四百一)

(四百二)

(四百三)

(四百四)

(四百五)

(四百六)

(四百七)

(四百八)

(四百九)

(四百十)

(四百十一)

(四百十二)

(四百十三)

(四百十四)

(四百十五)

(四百十六)

(四百十七)

(四百十八)

(四百十九)

(四百二十)

(四百二十一)

(四百二十二)

(四百二十三)

(四百二十四)

(四百二十五)

(四百二十六)

(四百二十七)

(四百二十八)

(四百二十九)

(四百三十)

(四百三十一)

(四百三十二)

(四百三十三)

(四百三十四)

(四百三十五)

(四百三十六)

(四百三十七)

(四百三十八)

(四百三十九)

(四百四十)

(四百四十一)

(四百四十二)

(四百四十三)

(四百四十四)

(四百四十五)

(四百四十六)

(四百四十七)

(四百四十八)

(四百四十九)

(四百五十)

(四百五十一)

(四百五十二)

(四百五十三)

(四百五十四)

(四百五十五)

(四百五十六)

(四百五十七)

(四百五十八)

(四百五十九)

(四百六十)

(四百六十一)

(四百六十二)

(四百六十三)

(四百六十四)

(四百六十五)

(四百六十六)

(四百六十七)

(四百六十八)

(四百六十九)

(四百七十)

(四百七十一)

(四百七十二)

(四百七十三)

(四百七十四)

(四百七十五)

(四百七十六)

(四百七十七)

(四百七十八)

(四百七十九)

(四百八十)

(四百八十一)

(四百八十二)

(四百八十三)

(四百八十四)

(四百八十五)

(四百八十六)

(四百八十七)

(四百八十八)

(四百八十九)

(四百九十)

(四百九十一)

(四百九十二)

(四百九十三)

(四百九十四)

(四百九十五)

(四百九十六)

(四百九十七)

(四百九十八)

(四百九十九)

(五百)

(五百一)

(五百二)

(五百三)

(五百四)

(五百五)

(五百六)

(五百七)

(五百八)

(五百九)

(五百十)

(五百十一)

(五百十二)

(五百十三)

(五百十四)

(五百十五)

(五百十六)

(五百十七)

(五百十八)

(五百十九)

(五百二十)

(五百二十一)

(五百二十二)

(五百二十三)

(五百二十四)

(五百二十五)

(五百二十六)

(五百二十七)

(五百二十八)

(五百二十九)

(五百三十)

(五百三十一)

(五百三十二)

(五百三十三)

(五百三十四)

(五百三十五)

(五百三十六)

(五百三十七)

(五百三十八)

(五百三十九)

(五百四十)

(五百四十一)

(五百四十二)

(五百四十三)

(五百四十四)

(五百四十五)

(五百四十六)

(五百四十七)

(五百四十八)

(五百四十九)

(五百五十)

(五百五十一)

(五百五十二)

(五百五十三)

(五百五十四)

(五百五十五)

(五百五十六)

(五百五十七)

(五百五十八)

(五百五十九)

(五百六十)

(五百六十一)

(五百六十二)

(五百六十三)

(五百六十四)

(五百六十五)

(五百六十六)

(五百六十七)

(五百六十八)

(五百六十九)

(五百七十)

(五百七十一)

(五百七十二)

(五百七十三)

(五百七十四)

(五百七十五)

(五百七十六)

(五百七十七)

(五百七十八)

(五百七十九)

(五百八十)

(五百八十一)

(五百八十二)

(五百八十三)

(五百八十四)

(五百八十五)

(五百八十六)

(五百八十七)

(五百八十八)

(五百八十九)

(五百九十)

(五百九十一)

(五百九十二)

(五百九十三)

(五百九十四)

(五百九十五)

(五百九十六)

(五百九十七)

(五百九十八)

(五百九十九)

(六百)

(六百一)

(六百二)

(六百三)

(六百四)

(六百五)

(六百六)

(六百七)

(六百八)

(六百九)

(六百十)

(六百十一)

(六百十二)

(六百十三)

(六百十四)

(六百十五)

(六百十六)

(六百十七)

(六百十八)

(六百十九)

(六百二十)

(六百二十一)

(六百二十二)

(六百二十三)

(六百二十四)

(六百二十五)

(六百二十六)

(六百二十七)

(六百二十八)

(六百二十九)

(六百三十)

(六百三十一)

(六百三十二)

(六百三十三)

(六百三十四)

(六百三十五)

(六百三十六)

(六百三十七)

(六百三十八)

(六百三十九)

(六百四十)

(六百四十一)

(六百四十二)

(六百四十三)

(六百四十四)

(六百四十五)

(六百四十六)

(六百四十七)

(六百四十八)

(六百四十九)

(六百五十)

(六百五十一)

(六百五十二)

(六百五十三)

(六百五十四)

(六百五十五)

(六百五十六)

(六百五十七)

(六百五十八)

(六百五十九)

(六百六十)

(六百六十一)

(六百六十二)

(六百六十三)

(六百六十四)

(六百六十五)

(六百六十六)

(六百六十七)

(六百六十八)

(六百六十九)

(六百七十)

(六百七十一)

(六百七十二)

(六百七十三)

(六百七十四)

(六百七十五)

(六百七十六)

(六百七十七)

(六百七十八)

(六百七十九)

(六百八十)

(六百八十一)

(六百八十二)

(六百八十三)

(六百八十四)

(六百八十五)

(六百八十六)

(六百八十七)

(六百八十八)

(六百八十九)

(六百九十)

(六百九十一)

(六百九十二)

(六百九十三)

(六百九十四)

(六百九十五)

(六百九十六)

(六百九十七)

(六百九十八)

(六百九十九)

(七百)

(七百一)

(七百二)

(七百三)

(七百四)

(七百五)

(七百六)

(七百七)

(七百八)

(七百九)

(七百十)

(七百十一)

(七百十二)

(七百十三)

(七百十四)

(七百十五)

(七百十六)

(七百十七)

(七百十八)

(七百十九)

(七百二十)

(七百二十一)

(七百二十二)

(七百二十三)

(七百二十四)

(七百二十五)

(七百二十六)

(七百二十七)

(七百二十八)

(七百二十九)

(七百三十)

(七百三十一)

(七百三十二)

(七百三十三)

(七百三十四)

(七百三十五)

(七百三十六)

(七百三十七)

(七百三十八)

(七百三十九)

(七百四十)

(七百四十一)

(七百四十二)

(七百四十三)

(七百四十四)

(七百四十五)

(七百四十六)

(七百四十七)

(七百四十八)

(七百四十九)

(七百五十)

(七百五十一)

(七百五十二)

(七百五十三)

(七百五十四)

(七百五十五)

(七百五十六)

(七百五十七)

(七百五十八)

(七百五十九)

(七百六十)

(七百六十一)

(七百六十二)

(七百六十三)

(七百六十四)

(七百六十五)

(七百六十六)

(七百六十七)

(七百六十八)

(七百六十九)

(七百七十)

(七百七十一)

(七百七十二)

(七百七十三)

(七百七十四)

(七百七十五)

(七百七十六)

(七百七十七)

(七百七十八)

(七百七十九)

(七百八十)

(七百八十一)

(七百八十二)

(七百八十三)

(七百八十四)

(七百八十五)

(七百八十六)

(七百八十七)

(七百八十八)

(七百八十九)

(七百九十)

(七百九十一)

(七百九十二)

(七百九十三)

(七百九十四)

(七百九十五)

(七百九十六)

(七百九十七)

(七百九十八)

(七百九十九)

(八百)

(八百一)

(八百二)

(八百三)

(八百四)

(八百五)

(八百六)

(八百七)

(八百八)

(八百九)

(八百十)

(八百十一)

(八百十二)

(八百十三)

(八百十四)

(八百十五)

(八百十六)

(八百十七)

(八百十八)

(八百十九)

(八百二十)

(八百二十一)

(八百二十二)

(八百二十三)

(八百二十四)

(八百二十五)

(八百二十六)

(八百二十七)

(八百二十八)

(八百二十九)

(八百三十)

(八百三十一)

(八百三十二)

(八百三十三)

(八百三十四)

(八百三十五)

(八百三十六)

(八百三十七)

(八百三十八)

(八百三十九)

(八百四十)

(八百四十一)

(八百四十二)

(八百四十三)

(八百四十四)

(八百四十五)

(八百四十六)

(八百四十七)

(八百四十八)

(八百四十九)

(八百五十)

(八百五十一)

(八百五十二)

(八百五十三)

(八百五十四)

(八百五十五)

(八百五十六)

(八百五十七)

(八百五十八)

(八百五十九)

(八百六十)

(八百六十一)

(八百六十二)

(八百六十三)

(八百六十四)

(八百六十五)

(八百六十六)

(八百六十七)

(八百六十八)

(八百六十九)

(八百七十)

(八百七十一)

(八百七十二)

(八百七十三)

(八百七十四)

(八百七十五)

(八百七十六)

(八百七十七)

(八百七十八)

(八百七十九)

(八百八十)

(八百八十一)

(八百八十二)

(八百八十三)

(八百八十四)

(八百八十五)

(八百八十六)

(八百八十七)

(八百八十八)

(八百八十九)

(八百九十)

(八百九十一)

(八百九十二)

(八百九十三)

(八百九十四)

(八百九十五)

(八百九十六)

(八百九十七)

(八百九十八)

(八百九十九)

(九百)

(九百一)

(九百二)

(九百三)

(九百四)

(九百五)

(九百六)

(九百七)

(九百八)

(九百九)

(九百十)

(九百十一)

(九百十二)

(九百十三)

(九百十四)

(九百十五)

(九百十六)

(九百十七)

(九百十八)

(九百十九)

(九百二十)

(九百二十一)

(九百二十二)

(九百二十三)

(九百二十四)

(九百二十五)

(九百二十六)

(九百二十七)

(九百二十八)

(九百二十九)

(九百三十)

(九百三十一)

(九百三十二)

(九百三十三)

(九百三十四)

(九百三十五)

(九百三十六)

(九百三十七)

(九百三十八)

(九百三十九)

(九百四十)

(九百四十一)

(九百四十二)

(九百四十三)

(九百四十四)

(九百四十五)

(九百四十六)

(九百四十七)

(九百四十八)

(九百四十九)

(九百五十)

(九百五十一)

(九百五十二)

(九百五十三)

(九百五十四)

(九百五十五)

(九百五十六)

(九百五十七)

(九百五十八)

(九百五十九)

(九百六十)

(九百六十一)

(九百六十二)

(九百六十三)

(九百六十四)

(九百六十五)

(九百六十六)

(九百六十七)

(九百六十八)

(九百六十九)

(九百七十)

(九百七十一)

(九百七十二)

(九百七十三)

(九百七十四)

(九百七十五)

(九百七十六)

(九百七十七)

(九百七十八)

(九百七十九)

(九百八十)

(九百八十一)

(九百八十二)

(九百八十三)

(九百八十四)

(九百八十五)

(九百八十六)

(九百八十七)

(九百八十八)

(九百八十九)

(九百九十)

(九百九十一)

(九百九十二)

(九百九十三)

(九百九十四)

(九百九十五)

(九百九十六)

(九百九十七)

(九百九十八)

(九百九十九)

(千)

(ロークスピア の アントニー剛中ポンペーの語)

we are enticed to think that their (gods) throne, during the [illegible] is all for [illegible] 吾人ハ此ヲ知ルニテ善ヲ望ムコトヲ其何ホニ善ノ為メニ之ヲ捨ルヲ知ラズト

(1)

(雑)

We, ignorant of ourselves, beg often our own harms, which the wise power deny us for our good; so find we profit by losing of our prayers. (人ニ乞ヒ求ムルノ法)

Pope 於テモ此語ヲ批評スルニテ人ノ心ニ根柢ヲ(ラヨガーポイント)制ス(メーレ パリ) 若シ人間ヲシテ己ヲ識ラシメ而シテ人ヲシテ己ヲ識ラシメヨ而シテ人ヲシテ己ヲ思ノ外ニ走

リト謂フベシ（今上）

こんこんノ況ンヤ従ハバ文学ノ目的ハ畢竟如何ノ理ニ帰スベキヤ、若ハ弁法ヲ設ケテ人ノ意ヲ慰ムルガ如キモノニアラズンバ止ム事ヲ得ザル場合ニ於テノミ之ヲ用ユベシ（今上）

元来自身ノ私欲ヲ満シ私怨ヲ霽ス為ニ文学ノ筆ヲ執ルガ如キハ固ヨリ論ヲ俟タズ（今上）

文学ハ人々自由ノ嗜好ニ任ス可キモノニシテ強テ之ヲ奨励スルノ必要ナシ（今上）

文学ハ人ノ心ヲ娯シムルノ具ニ供スルヲ以テ其ノ目的トスルモノナレバ其ノ性質タル固ヨリ軽佻浮薄ニ流レ易キハ免レザル所ナリ

若ノハ一時ノ名誉ヲ汲々トシ若クハ円満其ノ
ヲ主張シテ世ト妥協シ若クハ円満其ノ
ヲ主張シテ世ト妥協シ若クハ円満其ノ
ヲ主張シテ世ト妥協シ

真感覚之所ニ征ヒ感ヒ動詞ヲ前ニ置キテ受ケ後ニ
或ハ実詞ヲ前ニ動詞ヲ後ニ鉄箭ヲ化セラル故律ナシ此ヒ古
今文章ニ要スルニ(中江兆民ノ説ナリ)

(ロ)
通途ハ一言人心多狃於小成而昧大、物育神言人心多泥於
已見而昧於虚、養生主言人心多役於外底而昧於順、人間
世、則入世之法、徳充符則内而可聖、應帝王、則外而可王、此内七篇(合著之義也)外人心惟大、放能
虚、惟虚故能順、入世而後出世、内聖而後外王此又内七篇相
因之理也第是而大旨已盡矣(逍遥遊中ノ杜西伸ガ説)

(ハ)
荘子ハ「処ニ在ル」ヲ決ス、猶幸ノ如シ其後世ニ帝王ヲ平ラス
[illegible] (セーヌ河ノアルヂー獣中イレオパトラノ言)

(ニ)
血章ノ民モ雷撃ヲ免レズ [illegible] (今上)

(ホ)
ミルトンハ驚嘆スベキ好シフ井フトハ創造スルヲ好シ

水田板

(ヘ)
打破スルヲ好シ、バイロンハ戦フヲ好シ、スペンサーハ幸福スルヲ好ム
(テーンノ英文学ヲ読ムベシト浄中ヲ)

(ト)
紫宸殿ニ曰ク、朱第東廂下、俊秀見在山、此其閑意自得之意、
直若郎然遊出宇宙之外、信本多見高望字、若庸則有憂
衣滞足之態矣、乃知一字之誤害況有如此者(唐宋詩話)

(チ)
蘇子瞻曰、詩如有神趣、如曰暮中采
車、路暗失已久、歸人望烟火、雉子候簷障、晉、採菜東
籬下、悠然見南山、又曰雨
巷中、雞鳴桑樹顛、又曰雨々遠人村、依々墟里烟、犬吠深
家雞如此、如大匠運斤無
不快、如曰一千里色中秋月、十萬軍声半夜潮、晉胡蝶夢
中家萬里、杜鵑枝上月三更、又曰深林簫模千家落、
日樽壺一笛風、皆寒之
祖無神気、以其字字露世(今上)沈遠ト思淡、
雪情活況、洞庭天下壮観、自昔騒人墨客歌之者衆

如水、天影、胸山技地形高、又四顧疑無地、中依然有山、
身飛塵裏隨、帆遠去却如初、(劉辰翁)詩意自然、又未若孟浩
然詩云氣蒸雲夢澤、波撼岳陽城、依之則洞庭空闊
無際、氣象雄張、胸懷如在目前、至杜流子美此詩、則又
氣象不然、大抵語子無別、只不知少陵胸中吞雲夢杜也之(今上)上三下了
(陳訓明)蘇東坡云、陰鏗詩作不多、次其詩質而實綺、
癯而實腴、自惠劉鮑謝李杜諸人、皆莫及也
(杜子美)至佳云、先生之詩唱於唐、只出處吉乾命甚勞、魚悲
歡憂樂忠憤感激、好賢要要、一見於詩、後之可以知其世
學、士大夫調之詩史、
(李太白)改盧陵云、落日欲沒峴山西、倒著接離花下迷、襄
陽小兒齊拍手、攔街爭唱鴨鸕鷀、此常語也、至清風明月不
用一錢買、玉山自倒非人推、然後見太白之橫放、於之醉
動千古者、用不在式乎、
(葛蘇州)朱脩庵云、葛蘇州詩、高於王維諸人、以其無

畫色意味也、
(劉禹錫)詩話云、劉禹錫
(韓愈)言空同云韓吏部
枷電擊決雲杵天地之句、(以上今上)詩人評
李青蓮自是仙聖降生、司馬子微見即呼爲謫某有仙風道骨、可與
神杜八杜之表、賀知章一見亦即呼爲謫仙人、放逸山後
陳雷陳訪使李彥允高適化世海高大師授道錄、其
神采心有所通、詩之不可及處在乎神識超邁
默然而未始然、初去不爲々於離章詠句、亦不爲々於鍛
刻骨、自有天馬行空不可羈勒之妙、若論其法則
則不如杜、雄贍亦不如韓、用力而不能手生耳、此似
用力而不免痕迹、一則不用力而能手生耳、此似
與人之別也、之青蓮一生之本領即在五十九首古風之中、首
冠以使說大抵不作騷人斯起然同多哀怨、已非正聲、
至杜爲益流落建安以後更綿歷、不定有法、旨有序、
文章筆興、而已道考其詩次第、未能得之後是

其淵源所在、早已前無古人、後無來者、直欲於千載後上
接風雅、蓋自信其才分之高、鞠(窮)而之正、足以起八代之
衰、而以身任之耶。從大言起人也(盛言論)李白評
杜少陵一生窮愁、之子度日、直許作必不止今所傳古体二百九十首而已、使一無散失、後人有可即詩以考其生平、備乎遺
落過半、輯昌黎所謂垂千萬世下取得、所落人間。
者、泰山一毫耳。此在唐時已然矣、掌此宋諸公搜羅拾
彙序篇之又曰宋子京唐書杜甫傳贊謂、直詩壞運
証從千彙萬狀兼古人而有之、大概就其文能所言此
外如荊公東坡山谷等、各就一角、嘆(嘆)之為不可及、豈
未視若少陵之真本欲也、直本欲仍在少陵詩中語。
不驚人死不休一句、蓋其思力沉摯、至有十二分者、其筆力
分者少陵也、說到十分、其思力又倍蓰之所至、故深人無淺語、數
之喜劾、又足以副其才思之謂、其博厚凡雅、該沈宋、奪鮑李、吞曹劉、掩顏(顏)
謝、綜徐庾、足見其宇篤而有、秦少游并謂直不逮諸

家之長、未不能如此、則似少陵專以學力集、譏矣之大成
明李崆峒諸人、遂謂李太白全乎天才、杜子美全乎學
力、此真耳食之論也、思力所到即其才分所到、有不
如是則不快者、此批性靈中本有是今陰而盡其量爭、
出杜性靈所固有而謂其全以學力勝乎(全)杜少陵ヲ
評セル
迫(逼)南則更流徙丐貸朝不謀夕、途(塗)牛肉白酒一醉飽而
發、天以千秋萬歲名榮之杜身後、而計栗天縁倒(倒)薄之
杜生前、此現真不可解也、感(感)情(情)詩(詩)文(文)究之
(公上)又人究之
韓昌黎生平所心摹力追者、惟李杜二公、顧李杜之前未有李
杜、故二公才気橫恣各自生面、獨有千古、至昌黎時、李杜已
在前、縱極力變化、終不能再辟一徑、惟少陵所險處尚有
可推擴、故一眼覷定、欲從此闢山成(成)道(道)自成一家、此昌黎
註意所在也、然奇險處亦自有得失、蓋少陵才思所到
偶然得之、而昌黎則專以氣力構造、故時見斧鑿痕迹

有心無心異也、其実昌黎自有本色、仍在文往字順中自然雄
厚博大不可捉摸、不專以奇險見長、此昌黎亦不自知、後
人平心読之自見、若徒以奇險求昌黎、轉失之矣(今上)

韓昌黎ノ詩

中唐詩、以韓孟元白為最、韓孟奇警、務言人所不敢言、元白尚
坦易、務言人所共欲言、試手心論之、詩本性情、當以性情
為主、奇警猶策在詞句間、爭靴鬪險、使人掩心駭目不
敢逼視、亦意味或少焉、坦易者多觸景生情、因事起
意、脫前景口頭語、自能沁人心脾、耐人咀嚼、此元白較
勝於韓孟、世往以拯俗警之、此不知詩者也、元白二人才
力本相敵、悠香山自貶江洛以後益覺老辣無枝、秩
心而出、隨筆抒寫、并無求工見好之意、亦見越檀生一噴
一醒視廿年時典徵之各以才情之方競勝者更進一籌矣、
故白自成大家而元稹次之、又自香山詩名最著及身
已見行海内、李商仙後一人而已、觀其與微之書云自
長安至江西二千里、凡郷校佛寺逆旅行舟之中、

水田板

有題其詩者、士廉傳通嫡婦、勝廿之口、往々。

仕之。有詢其詩者、軍使高霞寓敷妓侑宴、妓曰、我
流得白学士長恨歌、豈他比哉、由是增價、湘南主
賓客、諸妓見香山至、指曰、此秦中吟長恨歌主到矣、数
之言其実也、靚寺郵候、憊堕之止無不書、王公妾婦牛
童馬走之口無不遍、至於繒寓摹写、街衢貴於市、又雜林
曹人求市頗切云、其国宰相每以百金換一篇、有甚価
者、并能弁之、是古来詩人及身得名未有如是之速且
重者、蓋其得名在長恨歌一篇、其事本易傳、此易傳
之事、后絶妙之詞、有声有情、可歌可泣、文人学士既歎
嘗不可及、婦人女子亦喜聞而樂道、是以不脛而走、傳通天
下又有琵琶行一首助之、此即無全集而二詩已自不朽、況
又有三千八百四十有之工且多哉(今上)白居易評

好作者、甚記の美人ジェーン研究二日夜さる(日(Gee
days and nights, it's a long time, if you
mean to be a good writer,
you must work
and labour.) ヂケンは勉強の花

(Addison was the best company in the world. — Lady Mary Montagu.) (He was not free with his superiors. He was rather mute in this society on some occasions; but when he began to be company, he was full of vivacity, and went on in a noble stream of thought and language, so as to chain the attention of every one to him. — Edward Young.) (The great satarist who alone knew how to use ridicule without abusing it, who without inflicting a wound effected a great social reform, and who reconciled wit and virtue after a long disastrous separation, during which wit had been led astray by profligacy, and virtue by fanaticism. — Macaulay.)

(2) It was on the day, or rather night, of the 27th of June 1787, between the hours of eleven and twelve, that I wrote the last line of the last page, in a summer house in my garden. After laying down my pen, I took several turns in a berceau or covered walk of acacias, which commands a prospect of the country, the lake, and the mountains. The air was temperate, the sky was serene, the silver orb of the moon was reflected from the water, and all nature was silent. I will not dissemble the first emotions of joy on the recovery of my freedom, and

perhaps the establishment of my fame. But
my pride was soon
humbled and a sober
melancholy was spread
over my mind by the
idea that I had taken
an old and agreeable
companion, and
unbosomed my
whole heart to the
future fate of my history
the life of the historian must be short and
Precarious. — Gibbon. (以上) 著者の得意
(二)
以文自負自豪然、至東坡益大放、歐河別岡生面、成一代之大觀、今
試平心読之、大概本思模倣、能表
供直充拙、右抽、無不如志、直亡不可及者、天生健筆一枝、求如
哀樂、快如并駆、有文章之隠、無雑鈔之情、此所以組李
杜後、高大家也、而直不如李杜處亦在此、蓋李詩如仙水之行地、流詩
游空、杜詩如泰嶽之鎮地、可得而攀、蘇詩如長江大河、滔滔汩汩、
者於此盡著眺可得之矣(以上評) 李杜蘇評
昌黎之後 放翁之前之東坡自成一家、不可方物、昌黎好用險韻、

(一)
以盡直鋪陳、東坡則不擇韻而但存直意之所欲言、放
翁古詩好用偶句、以炫直絢爛、東坡則行墨間多單行、
而不屑於對屬、且昌黎放翁多近正面鋪陳、而東坡則
又面仿面左縈右拂、不專
使典亦多正用、而東坡即
事敷陳、如數家
昌黎、而稍覺軽浅、整齊
固才分各有不同、不能
感者以其平易近人、疑其少鍊、
詰曲驚人耳目、而在乎言簡意
翁工夫精到、出位自然矣(以上) 韓、蘇、陸評
之、此其鍊在句前、不在句下、觀表并覚直鍊之至
(二)
以盡直鋪陳、東坡則不擇韻而但存直意之所欲言、放
翁古詩好用偶句、以炫直絢爛、東坡則行墨間多單行、
而不屑於對屬、且昌黎放翁多近正面鋪陳、而東坡則
又面仿面左縈右拂、不專
使典亦多正用、而東坡即
事敷陳、如數家
昌黎、而稍覺軽浅、整齊
固才分各有不同、不能
感者以其平易近人、疑其少鍊、
詰曲驚人耳目、而在乎言簡意
翁工夫精到、出位自然矣(以上) 韓、蘇、陸評
之、此其鍊在句前、不在句下、觀表并覚直鍊之至
(一)

英雲堂）ごんどうさう 注

一セーは こんしゅんて英雲堂一の手紙之文（今上）

（一）

（一）

十世紀文学の八非詩文学なも一面ニ散文文学ノ根元ヲ尚キ九ノ大切ノ部ニテ散文ハ二派ニ分ケ九ハ参話ヲ旨雅ニ准ニ九ハ如キ洗雅ノ文体ニシテアギリシアノ根元ヨリ来レルモノニシテ他ハ全ク老荘ニテ文、自カラ会話ト異ケ二属ス（今上）十世紀文ノ二派

（一）

之ガ代表者ハ（今上）古体詩行里向古多排偶一則以降ハ排偶一則以降ハ雑博一則以後ハ雑陸古体詩行里向古多排偶一則以降ハ雑博一則以後ハ雑陸古体詩行里向古多排偶一則以降ハ雑博一則以後ハ雑陸

（一）

百藥給国ト人之能事也、貫山則ハ尊行、統無偶句、

（一）

搆思宵瀬、十歩九折、金粉而意念保、味金馬、竜蘇陸

（一）

永不及也七言律則更沉鬱悲壮、唐之末年詩

（一）

之可歌可泣者、十数首（今上）元遺山詩

（一）

有之ゝ（頃也注）

（一）

詩至南宋末年、纖薄已極、故元明西代詩人又轉而学唐、此

（一）

亦風気循環往復自然之勢也、元末明初、楊鐵崖最為巨

（一）

水田校

障、無論控仿昌谷、妖冶、仿温李、江之自成一家則可也、究

（二）

非康荘大道、當勺王常宗已以文妖目之、未可為後世取法

（二）

也、惟康音邸才気勃蕩、音節響亮、宋代唐人而自出新

（二）

意、洵筆即有博大昌明気象、亦間有明一代之文軍、論

（二）

者推為元国詩人冠、信不虚也、李志考作高太史傳、謂其詩

（二）

上窺建安下逮斉元、至大歴以後則薫之、此亦非確論、今平

（二）

心観之、五古五律則晩胎於漢魏六朝及初盛唐、七古七律則

（二）

参以中唐、七絶并及晩唐、要其英爽絶人、故学唐而不為

（二）

唐所囿、後来学唐者多不何止万計、而神理蕭然則優劣自判矣、鍾譚等又從一字一句、標挙於群以為

（二）

得味外味、則走入魔道矣、（今上）高青邱評高啓詩云、独有青邱如天半朱霞映明月、

（二）

至今視之、真新新、則其天分不可及也、（今上）高青邱評高啓詩

（二）

高者即後有明一代竟無詩人、李西涯亀椎則清儁而才力尚小、

（二）

後七子号為風行海内、迄今優劣已定、直訂明代詩、

（二）

至未造而稍華奴発越、陳臥子況椎魂幕実未易不意

（二）

理掴陳臥子況椎魂幕実未易不意英雄欺人、椎銭齢講呉二先高海内、

推入国朝、徐而考之、梅村詩有不可及者二、則神
韻悉本唐人、不藉宋以後腔調、而旨趣情又宛轉如意、非
如学唐者之徒酸其貌也、一則元材多用正史、不取小說家故実、
而選声作色、又華豔動人、非如食古者之物而不化也、二若
且気、精衰颯不如青邱清雋、
而感慨時事、俯仰身世、
邱覚意味深厚也、(今上)呉梅村注
無悔村同時而行輩稍後、有
稍嫌膚気、節裳則全学
擯有高識無全味、直為伯声望高一時山斗者莫如王阮亭、
然阮亭専以神韻為主、如西京雑記、有應仿漢武帝
子劉賀事、云千載奉進嗚呼木不應仿漢孔都官、
倣柳者、柳墓云、殘月曉
籍信蓋実昌千古絶調、
元徴之許渾詩、排比声韻、豪蕩意態、
見絶、統不足、八面要敵者大家也、直伯生竹
垞亦負海内

水田校

重名、至今猶朱王并称、莫敢軒軽、竹垞不喜江詩傳直
直詩和学盛唐、格律堅
奥、書棄格律徒自成一家、
直他則穏庶自恣、不加修飾、
笨一永別唐宋流之後者実難其人、惟查初白才気縦横
工力純熟、鄙意歿以継諸賢之後也(今上)査初白詩
近体七言律、
絶、善ひて又自ら
体の堂戒を負侍る中
称する所士ありや也、
杜もたをなぶうめし市
生拳本を角眼一たる
評ありし詩神を
おいるる及ばす、
をもる肝要
歌そうる

Art ↓ Nature

すこしなりとも○之句より天仁波多けれバ仏のごとく賤しきまなり
ゆゑ世初なる仏法は之句を以て和歌或ハ俳句などの如く
心なども字七字等の字くばりを以はさむ事なく
世間の天仁波多くなるなりおのれを事をもわれ也
を事をもわれ也をでゝくるみのくるなどゝなるのくる
事おそうて月経と言ばでゝやく女まれ心大様は文
句の本意を知てそれ〳〵きをあれ心ハ法るゆのも意ハ三即之
をきつゝりと話ゐれバくつて口みゝとぬつのありを○浄名
りの文句みな実るこをあり近くゐ女形のにとゐほく実の女の口上ゝ
実るこなきるのあり近くゐ女形のにとゐほく実の女の口上ゝ
ねいもぬ之多し芸実ゝ又藝をいるものゝて実の世のはす
わいをもことをお出てくるゆゝ之ゝ実情がおくまでなくゝ之数
を実の世の情をもとをきてつこゝたるなゝ女の在ゐなんどゝら
あくゐれずてお出てなくきみこなるぬものゝをるようて
藝をいる外〳〵をはけずゝ女ゐ在ゐなる

水田板

虚實

情を実よりもめて

けるき何なるゝし生とも出熱ゝ藤なりとる
しもを○浄名りゝ意が肝ゝ之句をまた又ゝ法をもぐ
るの多ゝ作果りいをもたるこをもつもよとす藝のこと
ハ節も之句もをつとなる程よくこのは心なるものゝ
らの故ゐあはれをあはれこと会意の意なうてけつ
くを情うまし心は法なりとそはしてひそりあはれなる
汗雫ありうをの○のる人の当ありとよくく理法の実ゝをるの
ありくれバ合点をぬ世中ふぬるゝゝしをれバこ我をかをの世間主可
作が実るの仏をとよくこと我ゝ仏るをもんてす之句を仏の
ゐなゝ仏なるをもんてす之句を仏の
むのやうなれでも藝をふ
あり藝とゝふもゝ実と虚との境の内よりなる

虚ろて虚よあらす実のみ
いたものなく云々古見の再
抄書如なりともあいるのつきる所あるしそを抄ま
そうとして元係を変かるも
を似するなり又大まかなる
いまるなり故何もものの人
なる木あるる時句落るなつて
せり他ともそこれ
ばげ人の青章う）近松の戯曲論

（い）（ロ）ゲーテ云ハ Vanity Fair, The Vision by Box, Christmas Stories, Eugene Aram, The Rime, The Cantos, ヲ
Faust drama of Pompeii, Rienzi（以上の文学史
すれ世紀月井源井ゲルトヲアレは中ニ至リテ流布ノ好
一変シ所謂幸實主義（フランクチカンビルト）ニ向ヒ走シテ

水田板

至りしかハ従テ一般ニ勧業ヲ説キ旅行日記、傳記、歴史
ナドヲ重ンスルノ傾トナリ又小説ニ在テモ叙事文ノ時代
トナリシヿハ前ニ述ヘタル如シ然ルニ此時代ニ於テモ
失ヲ之ヲ傳ヘントスルカラウイン之ニ泊キリ
代ヲ伊太利亜ノ時代トシオウゲスタス時代ヲつうス亜ノ時代
トセハゲルマン時代ヲ加ヘテ五ツトナスヿヲ得ヘシ
（以上）十九世紀文学評

（ハ）ヨリザベサン時代ノ文学ハ其ノ主トシテ戯曲ニ
シテ実ニ驚クヘキ進歩ヲ為シ十年ニ亘リテ盛ニ行ハレ
シキヲ以テ心ニ持セシカラズ其ノ後ニ至リテハ漸ク衰退ノ
人心ノ天性ニ基キ且ツ時勢ニヨルモノニシテ只天人一如キ自然
正義ト道徳トヲ以テ人物ヲ描セントセシニ過ギス
（ドーデンの批評論）

ヨリザベサン時代ニ於ケル科学ニ関スル思想ヲ
ニシテハ宗教学ニフーカーノ如キ哲学ニベーコンノ如キ
特性ハ複雑的ニ有形事実ニ対セル感情ノ富豊ナリシ

(Gabriele d'Annunzio, Leonardo, Fedele, Fantasia) 之ヲ
リモ(今上)ヨリ古代ノ
(ロ) 古代ノ日ノ人物ハ理想界ノ存在ヲ美術的ニ描写シ
ソレモノニヨリテ之ヲ事実ノ是ト在界ノ人間ヨリ又ハ古代ノ時ヲ待チ人
間ノ生活変遷ノ歴史ヲ運命ヲ描キ(今上)ヨリ
(ハ) 運命ヲ描クト云ヘバ劇ノ大ナルモノヲ産シ又
カノ偶チ其時代ニ実ニ出ヅル方向ヲ描写シ唯直カニ人間ノ
二面ニ美劇ノ大ナルモノヲ産シ又
カノ偶チ其時代ニ実ニ出ヅル方向ヲ描写シ唯直カニ人間ノ
上ノ他界ニ向ハズシテ現実ノ一点ニ止マリシノミニシテ(今上)ヨリ古代
ヨリ ドコマデモ書キ下ロシテモ偶像神
(ニ) ノ結果ヲ有セズ勿論人間界ヲ忠実ニ直写描出スル時
ハ自然ト美ヲ現ハスモノナレバ之ニ伴フ宗教ノ
信仰ヲ表ハス点ニ於テハ完全ナル偶像ノ神ニ近カヅクモノトモ人
間界ノ古代ノ芸術ヲ宗教的ニ見做スヲ得ベシ

(ホ) 水田板

(ヘ) 雑

(イ) 劇曲ノ如キハ人情風俗ヲ描キ得ルノミナラズ之ヲ目的トシテ
モ戯曲家ガ自己ノ直ノ二自己ノ面白キ様ニ描キ出ス為ニ全ク
物ノ人ヲシテ同様ニ記サシメントスルモノナルガ故ニ見物人ノ情ニ

ノ一部ニシテ物ノ果ハ之ガ後ノ隈ノデナガラニ示スモノトセバ
之ヲ直写シテ欲シクハ(今上)ヨリ前ノ劇ヲ宗教的ニトラヘテ存在
サセルベキヤ(今上)ヨリ古代
(ロ) 劇ハ有限ニシテ実学的積極的ナル境界ト無限思想
無限ノ境界ト住ミヲ而カモ二者ノ美ノ諧和シタルモノ
トヲツクサシテ(今上)ヤリ古代ノ
(イ) 劇ハ狂熱ヲ二面ニ立チ人情ニ狂ヒ人情ニ狂ヒ
ヲ描キ又ハ而シテ何レモ皆実在界ヲ忘レ人ノ罪ト見做シタリ
(ロ) 劇ノ劇ニ通シテ下ノ地トナルモノハ
血ト判断ノ争ヒトヲキシテ(今上)ヨリ古代ノ劇
(ハ) 劇ノ眼中常ニ在ルハ刃ノ閃影ノ如キ現実界
ニ成功シ得ベキカ叉ハ成リヲ遂ゲントスルノ一向ニ
おさらナリシテ(今上)ヨリ古代ノ劇
(ニ) 戯曲ハ人情風俗ヲ描キ得ルノミナラズ之ヲ目的トシテ
モ戯曲家ガ自己ノ直ノ二自己ノ面白キ様ニ描キ出ス為ニ全ク
物ノ人ヲシテ同様ニ記サシメントスルモノナルガ故ニ見物人ノ情ニ

雜種

許ことゝゝ是非共ゝ知ゐ、陰ノ神ニ古ヘノ特質ヲ甚ク
(こゝゝ)(おゝ子トの心扶文字)
ゐるノ調和、主宮ノ調和、佛作ノ調和が待ニ完全ニ生来得
ヨヤ否ヤニ純テハ吉来儀(浄土ゝリ)ニュー・ゲルハ種
ノ調和ハ望ム(からゞトゝ)(全上)

雑種

三味線ノ胴ノ名称ハ棹、胴、皮、轉軫、糸藏、海老尾、猿尾、隊、
月形、乳袋、駒上駒下、鳩胸、胴先、根緒、根緒掛、下方、山掛、
撥皮、座、中子先、むぐり、あぜ、「絃音すす」音色ノ秘訣ハ(トン)ト
一ノ糸及二ノ糸ヲ放シテ彈クトキノ音ヲ(テレ)トハ三ノ糸ヲ放シテ彈クトキノ
ソライヒ(リン)トハ三ノ糸ヲ押シテ彈クトキノ音ヲ(チン)トハ三ノ糸ヲ押シテ彈
ニテ別ルライヒ(レン)トハ二ノ糸ヲ中指ニテ別ルライヒ(シャン)トハ爪モシクハ
下メ駒ヨリ量リテ上ハ駒ニテ二尺五寸八分トシ(1)ノ音ハ二尺四寸二分八毛(2)ノ音ハ二尺五寸八分(3)
ノ音ハ二尺六分四毛(4)ノ音ハ二尺寸九分三毛(5)一尺七寸三分五毛(6)一尺九寸四分(7)一尺三寸
三分一毛(8)一尺二寸九分ノ所ヲ押サヘテ彈ケバ(1)ノ音ト定メ下駒ヲ離レテ一尺九寸
太キ一ノ絃ヲ放シテ彈ケバ(1)ノ音ト定メ下駒ヲ離レテ一尺九寸
三分五毛ノ所ヲ按ヘテ彈ケバ音程四度高キ(4)ノ音トシ一ノ絃ノ下駒ヨリ一尺二寸九分

(佛)　(乎)　(采)

ニ移ス八音ヲ用ヒ(ル)ノ音ト共ニ昂チ(ル)ノ絃四ノ音、三ノ采八ノ音ヲ(ノ)ノ絃ノ音、二ノ絃四ノ音、三ノ絃ノ音ヲ(ノ)ノ絃一ノ音、二ノ絃四ノ音、三ノ絃ノ音ヲ(ノ)ノ絃一ノ音、二ノ絃四ノ音、三ノ絃ノ音ヲ(ノ)ノ絃一ノ音、二ノ絃四ノ音、三ノ絃ノ音ヲ(四靈ノ底ノ古今雅曲集)

凡八ノ忍ノ裏ノ孔ヲ開キ竹根ノ方ヘ一ニ三四五ト数ツルモノニテ(ロ)ト八皆塞キテ発ス九音ノ名ヲ(リ)ト八五ノ孔ヲ開キテ発スルモノ(レ)ト八五四ヲ開キタルモノ(チ)ト八五四三ヲ開キタルモノ(ヌ)ト八五三ヲ開キタルモノ(ル)ト八三ト二ヲ開キタルモノ(ヲ)ト八二ヲ開キタルモノ(ワ)ト八一ヲ塞キ二五ヲ開キタルモノ(カ)ト八何レニモ五ヲ打ツ事ナシ(今上)

(乎)

箏ノ焼桐ノ名ヤ、龍舌、大磯、小磯、雪角、海龍角、天人座、柏葉、龍尾、龍腹、前足、蟠蛇足、琴甫、陪円、柱、座、裏板ヲ(ノ)絃、十三絃ニシテ向ヒ一三ニ四五六七八九十斗高ヤ低ヤト数ヘ九ツ所ノ名ハ大指ニ挑ヲ前ノ如ク中指ヲ向ノ如ク食指ノ下ヲ(今上)

(佛)

白傳集曰、江正義度無還、江田教垂無究、莫尊於妙法蓮華経、

(ハ)　(ロ)

凡六万九千五百言、証無生忍造不二門住不可思議解脱、莫極於維摩詰経、凡二万七千九十二言、摂四生九類人無餘涅槃実無得度者、莫先於金剛般若波羅蜜経、凡五千二百八十七言、壊罪集福遠一切悪者、莫急於佛頂尊勝陀羅尼経、凡三千二百十言、應念順生極楽土、莫数疾于阿弥陀経、凡一千八百言、用正観観真相、莫出于観音普賢菩薩行法経、凡六千九百九十言、詮自性本覚、莫使于実相法宝経、凡三千一百五十言、空法塵依佛智、莫過于般若波羅蜜多心経、凡二百五十八言、是八種経、共十二部、合計五万六千八百五十七言、三乗之秘蔵盡矣、(法華類聚鈔の釈の部)

元妙内篇曰、老子入関之西、天竺夫人名曰浄妙、老子因其晝寝、策日之精入浄妙口中、後年四月八日夜半時割右脇而生、堕地、行七歩、挙手指天曰、天下天上唯我為尊、三界皆苦何可楽者、乃是佛教興焉、(八二七)

釈氏書曰、自釈迦世尊而下為迦葉、阿難、中有馬鳴、龍樹之至菩提達摩、為西天二十八祖、一祖摩訶迦葉、二祖阿

難、三祖商那和修多、四祖優婆毱多、五祖提多迦、六祖陳遠
加、七祖婆須密、八祖佛陀難是、九祖伏馱密多、十祖脇尊
者、十一祖富那夜奢、十二祖馬鳴、十三祖迦毘摩羅、十四祖龍
王祖阿那提菩、十五祖羅侯羅多、十六祖僧迦難提、十七祖僧
舍多、十八祖須摩羅多、十九祖鳩摩羅多、二十祖闍夜多、二十一祖婆修盤頭
二十二祖摩那羅、二十三祖、鶴勒那、二十四祖師子尊、二十五祖婆
舍斯多、二十六祖不如密多、二十七祖般若多羅、二十八祖菩提
達摩、云(已上)

(ロ)

維摩經曰、舍中有一天女以天花散諸菩薩、妻婆隨落、至大弟
子便著不墮、天女曰、結習未尽、故花著身、結習盡者花不著
身云(已上)

傳燈錄云、禪有深淺階級殊等、若帶異計位上厭下、勿
修者是外道、禪正信因果亦以厭而修者是凡夫禪、悟
我空倫真之理而修者是大乘禪、若頓悟自心本来清淨元無煩
惱、無漏知性本自具足此心即佛依此而修者是最上

(ハ)

乘禪亦名如来清淨宝窓禪云(已上)

賜人詩文押印、下用朱文表字印、或用姓名印、或用姓名印
非也若非賜人者用号印亦可、但押之名印上不可也、名印
白文為正式、近見學古編字印号印須従朱文、其法載
漢舊儀、此不復具、又士庶人印皆曰某之章、惟也、漢官
儀吏秩二千石以上銀印亀鈕、其文曰章、曰某官之章、蓋
其称次重也、云取風雅語作條印、印於書牘之首、謂
之引首印、招補関防印、諮詢関防印、皆偽條印也、法当施簡端
之間、蓋起於宋人云云、
平生詩文印用青色、必禮不可用朱、故易之也、嘗見人詩
印用青色、余怪之、蓋居喪三年、吁制中可乎、輸墨邦、
二蘇兄弟居喪再期之内、堅斬作文章、況肯詠詩乎、
何也詩乃有韻之文、正哀戚不服之時矣、爲其操觚拈
韻哉、故古人無父母之詩、況於他題乎、謝惠連生爰
會稽郡吏杜徳靈、及居父憂、臨以五言詩十余首、

文行充世、坐意不隊榮伍、甚致清議如是、可不監也哉。(今上)

(軍) 今世城門、以敵陣名自称不嫌、皇考甥諸也、南門補追手、傅攻破其軍追入于城也、後門執縛于此也云云(今上)

(宋) 大好人、歌謡ヲ愛シテ之ニ融和セラル而シテ正直ナ人モ亦此ノ如シ(文集)

(智) 知ラザル外衣ヲ定視シ詰メテ終ニ真外表ノ透明トナルニ及ブヤ(カーライル)

こうりを仗ノ字若ハ中位ニ身ヲ置カザレバカラズト実ニ然リ故学若ハ上天ヨリ下ハ最下物ニ至ル徹底スルモノ即チ是ナリ凡テ万事万物皆カクノ如キモノナラン(カーライル)

(傳) こんチュールフェルスドロック(Teufelsdröckh)ナドノ如キ大文人ハ真ニ大英雄ノ生涯中ニタマ〳〵起ル特性的事情ニヨリ感化ヲ蒙ルノ人ガ之ヲ推測スルヨリ外ニ知ルヨシガナキ之ト交際シテ知ルヨシガナキ真相ヲ洞解スルヨリ多シ(カーライル又曰ク此ノ如キ偉人ノ事実ハ永遠ニ忘却セラルベシ)

(得) 最モ喜ブベキハ、コノ偉人ノ謙譲ヨリ彼ガ真大家トナリ(become a great man)(今上)

(得) 之ヲ有リ〳〵トシテ(生涯ノ)ボスウェル(傳記)ヲモノセント企テシヨリ甚シキ者ハ無シ(カーライル)

(得) 偉人ノ秘法ヲ知ラント欲スルニ(傳記ノ)ボスウェル(傳記)ヲ読ムニ如クハ無シ(カーライル)

(得) 偉ノ秘法ヲ者ガ(ラムベーア)日ト合ニ言葉ハ自由、真理、(ラムベーア)ト実ニ然リ(カーライル)

(得) 偉人ノ思想ノ明白鋭利ナル、校訂ヲ論理ノ系ト為ツテ而カモ精大全身ニ横ハリテ通ク海理象ニ応ゼル所ノ妙ナル、固情、且他冒典ニ美妙ナル天性ヲ具備

(ろ)

もて彼に百事に対し多少、懐疑の心無き能はざるも、葉掛きこもがきながらも疫をせん事を望み勝利を望むも寧ろ戦闘を望むの心切なり、加き者こそ実に彼に夫の直現の発見もせんと探索が甚だ利益多しの言を吾人に銘肝メンとすべきものなり。(今上)

(ろ)

刀剣に文禄以前の古刀と唱うるは慶長以後の新刀と唱うるは(山田古照先生今般指備考)

鉄の性質を白と灰色と黒色とに分ち白は硬く黒は軟く灰色は硬軟其中間にあり、白は鉄が即銅なり播州千草にては之を冷やして打砕き出でたる四方白又は八方白と唱う又石州出羽にては之を直ちに水に入れて冷やし出だす之を水入銅と唱う今銅の伝称は挙げて多数なり、千竹銅、即可銅、水折銅、近銅、鍛銅、頂物銅、摸銅、お向銅、地お向銅、月白銅、作子銅、等是なり。

(ろ)

鍛冶剛柔に作りたりとも火に焼き入れ水に焼き入れ又は助心法、五行相剋法にて四時に適応して作りたりとも銅を鍛えたる泥土墓床の如きものにて銅を鍛えたる泥土墓床の如きものにて鍛接鍛錬の二法凡そ和洋相同じ鍛法は鍛接と鍛錬の二法凡そ和洋相同じ鍛法は鍛接と鍛錬の二法凡そ和洋相同じ鍛法は鍛接と

(今上)

刀劒ノ事ニ就テハ古ヘヨリ其ノ説モ種々ニ分レ且ツ近世ニ至リテハ鍛工ノ技モ大ニ変リ行ケバ今ハ古ヘノ説ノ凡ソ半ニモ当ラヌ様ニナリ来リタレドモ其ノ中ニテ今ニ於テモ尚ホ守ルベキ事ハ守ラネバナラヌ故ニ其ノ概略ヲ述ベテ見ヨウ

一、鍛冶ノ場所ハ成ルベク清浄ヲ要スルコトニシテ毫モ塵埃ノ立ツ恐レノナキ様ニ注意スルヲ要ス

一、鍛冶ノ炉ハ地ヲ掘リ下ゲテ築クヲ普通トスレドモ地ノ湿気ヲ防ガンガ為メニハ地上ニ築クヲ可トス

一、炉ノ大サハ其ノ鍛フ刀ノ大小ニ従ヒ適宜ニ定ムベキモノニシテ一概ニ言ヒ難シト雖モ凡ソ大刀ヲ鍛フ炉ハ長サ二尺五寸巾一尺五寸深サ一尺位ヲ普通トス

一、炉ノ中ニ入ルル炭ハ成ルベク堅キ木ノ炭ヲ良トス

一、鞴ハ風ノ強弱ヲ自在ニ調節シ得ル様ニ注意スルヲ要ス

一、鉄ヲ鍛フ槌ハ其ノ鍛フ刀ノ大小ニ従ヒ適宜ニ定ムベキモノニシテ一概ニ言ヒ難シト雖モ凡ソ大刀ヲ鍛フ槌ハ重サ百匁乃至百五十匁位ヲ普通トス

一、鉄ヲ鍛フ鎚ハ其ノ槌ノ大小ニ従ヒ適宜ニ定ムベキモノニシテ一概ニ言ヒ難シト雖モ凡ソ大刀ヲ鍛フ鎚

し或る土壇へ土壇へ直ぐト之を組かつして煉合セテ比紫キ之ヲ据物ハ
向ニテ左ノ方ヲ首ニ高シ脊テ正面ノ方ニ向ケ直横ニシテ太刀打
四ム箇所ヲ土壇ト連関スルシメ又据物ノ動カヌ為メ同ノ周リヲ
竹ヲ前後ニ達ツ之ヲ据竹ト唱ツ之ヲ据物ヲ縛シ置ク可キ割、腸毛、捻附、車先、一ノ胴、
二ノ胴、三ノ胴、鞘胴、押胴、乗胴、看割、
足袋形(ママ)等ヲ截断シ様ニ先ヲ土壇ニ向ヒ且ノ動
ノ長短ニ従テ巳ヲ體ノ居所ヲ汁リ向ノ八文字ニ肩幅位ニ足踏シ
テ截断モノ箇所ヲ筈ト見定メ刀ヲ柄ヲ握ト左右ノ傍綿ナ
ク、太刀ヲ肘ヲ附ケテ肘ヲ居リ沈シ、肩ヲ落シ両肱ヲ少ク上ケ
売骨ヲ合セ下腹ヲ充リ腰ヲ力ヲ入レ
盈シメ唾ヲ呑ミ呼吸ヲ定メ刀ヲ結ト息ヲ法ノ夫ヲ気ト体ト共
ニ充リ〳〵ト伸ヒ上リ十分満ル時ハ瞬ヲ又鈎合ノ伸ヒヲ是ニ返ス
二ト締リ上ノ伸ヲ神心ノ伸ヒヲ是ニ返ス
但十方ニ流テ体ニ伸ヒ充実ハ
神気ノ伸ル迄ノ事ヲ其調子ヲハズカス気ナノ直ニ打落

木田放

(ハ)

(ヒ)

(ハ)

ス、太刀ノ土壇ヘ打込ミ截シ止リテモ気体共ニ前ノ息ノ全ク一所ニ也
是ヲ残心トモ云ヒ或ハ太刀ノ落ヲ物ニ中シ叶ハヌト息ヲ吹キ気体
前ノ如クシテ(以上)

(ヒ)

元歴武ノ刀工ニ名高キ城州ノ城(ママ)洲汚宗近、永延改ニテ且銘ハ三条コヲ
宇近又ハ日生、二月吉種ヲ(2)和洲ノ天国大宝性ニテ或ハ宝氏人
アリ云ヒ又物銘ニ古代ニ皆天国ト銘セシ天地人ノ二字ヲ主ナリトモ云ヒ(3)神
息、大同ニ云ヒ且銘ハ宇佐住八幡神息、ヲ之ヲ下ニヲ尊敬スルノ誠意ヲ告リ
奉良朝ニ上ノ美術、遅鈍美術ヲ二人ノ
出ルモノヲ上ニ献セモノヲ平安朝
意匠ヲヲ之ヲ幸ガモノハ美術眼ガ肥ヘ行キ
工人ハ注文ヲ者シテ之ヲ造ラシムル
術ガ全体ニ意ヘ行キシヲ之ヲ知ラ
ノ美術ハ益意ヘ進歩ノ方ハ備ヒ
(里不意ノ教演述)

勿論一切ノ事物ハ変化ス能ヲ之ヲ心ヲ得ヒ亡ヒモノニシテ美術ノ如

キモ人世ノ要豊ニ社会ノ須要ニ伴ヒ進化スル時ハ必ヤ此
モノノ完美ヲ要スル美術ニ就ノ人世ノ須要ニ適應スル要ニ美術
ノ如キ程度ニ由ヲ且品位ヲ定ムルトスルモ可ラス一方ヨリ之ヲ論ス
レハ美術モ亦経済ノ範囲ヲ出ヲサルモノニシテ適良ノ需要ヲ
離レテ美術獎励ノ大安キトシテ直ニ良ノ
供給ニ連絡セシムル事ヲ得ス在リテモ金閣ノ
佛畫定朝ノ佛像其ノ如キ佛ヲ需ムル應ニ
スル神気ノ充溢ナルヤ自ラ東山清高ノ畫風ヲ発達シ見
他豊公ノ桃山荘飾ニ於ケルモ茶家ノ衝器ニ於ケルモ武家ノ
刀剣金工ニ於ケルモ悉ク需要ノ性質ニ由テ美術ノ形体ヲ変
化セシメシモノニシテ此ヲ以テ美術ニ表ハレタル
ヲ観ルモ何人世ノ精神ヲ一身ニ集メテ顕表シ
モノニ非ル一代ノ大家ヲ以テ代表スル
法則ニ依ルニ(九鬼隆一)ハ美術ト人心
徳川ヲ表建ノ風ヲ全国ノ思想ヲ分割離散シ邦国一般

水田板

ノ精神ヲ要達ニ統一スルニ故ニ偶々名工ノ生ルアルモ縦カニ
一局部ニ地方ノ精神ヲ代表スルニ過キサルヲ自カラ偏頗ニ陥
シ日本全国ノ代表者タル能ハサリキ茲ニ徳川ノ代ニ動保右ノ如
法ハ隨分周到ヲト雖モ他ノ制度文物ト同様ニ直衆美ノ発
用ヲ縮減シテ若シ桃山ノ真豪ヲ引続キテ海外ノ
美術ニ交際シテ進化シタラシ今日ノ如キ狼狽ナカ
ラシ(今上)復興ノ時代ノ美術
桓武帝以後ノ文化ニ事ヲ直チニ唐宋ノ影響ヲ受ケ大和
地方ニ於テハ如キ三論蒙古中亜細亜北印度等ノ刺撃ヲ
テ固有ノ美文発達シ大ニ其特質ヲ異ニスル且夫大和地方ニ見
ル美術ニ主トシテ彫刻ニ発達シ京都美術ノ上ニ大影響
ヲ及ホシタルモ由ナシ今ノ美ニ影響ヲ及ホシタリ而シテ本邦美術
遺ニ顕表シ其影響ヲ見ル迄ニ尚一転ノ法隆寺ニ止ノ
第二期ヲ奈良ニ属シ第三期ヲ平安ニ属シ第四期ヲ五期ヲ六期ヲ第
七期第十二期ニ亘リ第八期第十期ヲ江

戸に屏もり (六上) 日本に於ける
顧つて将来の美術形相、決して従来の形相を維持する
に非ず寧ろ従来の形相を融合調和して成立つもの丸ごと美
術の沿革に鑑みに各種の美術に平均に発達し固より旺盛な
るべきも少くし曼主として各種の特種の妙想を異にし特種の美術に体を
なす最も面白き特種の美術に体を
発達するに依りて顕はるゝ画、或は彫刻、或は絵画
に於ても亦た同じ或る歌に依りて或は音楽
に於ても亦た同じ或る歌に依りて或は音楽
これ等のものゝ近代の如きは欧洲各国の前日の画、古時の彫
刻、影響されつゝ多く放ち之を融合
墓キ之を其年代を経ても当
時の純画に従て製作したものゝ多くこれ
等の洋画も、主として絵画に照らし甚だ代を考へられ欧
洲にても希臘か彫刻に於ては建築に於ても
九十四世紀の伊太利が純画、絵画に於ても亦た然り
好高迫ひに十全に備へ妙想も備頗るうれしく由り今後に

水田抜

現出すべき美術の諸体を具足するに至るべく
世界美術各均しく人世美術の大手
たらざる即ち将来の大手
の妙を顕つて摸言すべ
し (六上) 美術会達の次第
西洋に在りては美術を純正美術と応用美術、
に細画彫刻建築を入れ
美術とを第九もの丈け従来
いう如きこと (六上) 美術
若くは住の如き身体界の必要品より文学美術の如き精
等より美術のうち所に関
して (六上) 美術に精神上の
李邦美術の紀元、先づ自加、曼徴を始とし夫より聖徳太子、光明
皇后、鑑仏子、弘法、河成、小野篁、金岡、智証、菅公、公忠、宅
磨寛氏、公望保正、弘高、夫より通平の初まりて春日基光行

海行知、恵心僧都、宝慶、寛成、中野備正、秦致貞、
宅磨為憲、為久、澄賀、良賀、重慶、鳥羽備正、安阿
弥、大うち下ケ世系ノ末、足利ノ初ニあり下ケ仏可弥、周伊、陸奥、
紫賀、有家、惟久、夫うち足利中興ノ祖ニ、カケテ如拙、周
文、北魔司、李秀文、小栗宗丹、宗栗、雪我北足、能阿弥、芸
阿弥、相阿弥、足利義政、義持、雪舟、拗月、秋月、周賦、
狩野正信、元信、宗秀、宗生ヨリメリ凡用ノ祖ニ推古ノ聖軌ニ
足利ノ末ニ至テ美術盛衰ノ変ニ(注)ヲ按ズルニ陸方
盛ナリシモノガ応仁ノ乱ニ後巨儒ノ意ニ前ル四百年間
ニ多サノ盛衰ヲ生シ此如ニモ美術ノ隆盛ヲ極メテ最モ
ナル机面形(テーブルのこと)ナル物ヲ作ラザリシハ世ノ改革
ニ拘メラレ民心ノ攻撲ヲ欲メ倫約節制ヲ主トシテラ美術
ニ於ケル多ク美術家ヲシテ民平時代ノ残物ノ
ミヲ写シテ新ニ一ノ実用ノ器物ヲ作ラシメザリシガ如シ
且ツ世系ノ倫ニ足利ニ至リテハ専ラ唐宋ノ影

水田板

(美)

響ヲ受ケタル氏大家ノ多クハ仕ニ仕ヘテ僅ニ仕リテ廃ル大ナル画材
ヲ描ク為ニ非ラズ若シ足利義政ノ政ニ足利一家ノ社稷ヲ保ツ為メニ
ハ非ラザリシナラバ後世絶ユル事ナカリシ大家ノ永徳ヲ失シ
タリ豊臣氏ノ文気真家ニ造リ出ダシ康ノ周到綿密ハ探ル
美術家ヲ化シ、恵海、安信、常信、雨信、昇光、琳
宗達、大雅、蕪村、應挙、岸駒、呉春ノ徒輩出シテ徳川
三百年ノ世ヲ代表シ名ヲ後世ニ伝ヘタリ殊ニ唐宋ノ気ハ
川ノ末葉ニ於ド前古無比ノ称ヲ博シ明気ニ至テ大ニ賑ヒシ気ハ如リ徳
世ハ桃山ノ末ニ比シテ物徴ニ至リテハ遥ニ及ハザルヲ得ズ而シテ
只利ノ如キ推古ノ聖軌ト天平ニ至下テ
(注上)ハ本系統ノ沿革ヲ書ニ一百年ニ佐テ毎ニ変ゼリ
リ古代ノ都ノ指キ神風ノ皇后ノ征韓ニ未断次ノ那

哲學

（高橋里美之介教授）

元朝ノ印象ヲ受ケ之ト共ニ印度ノ画風モ伝ハリ之ト共ニ印度ノ画風モ伝ハリ禅僧入リ之ニ在来ノ画風モ加ハリ漸次進ミテ三百年ヲ経過シ室町ニ至リテ雪舟等楊ノ如キ大成シテ名人上手ト称セラルヽ事ニ下リテ二百年許ノ後狩野永徳ト出デ更ニ下リテ二百年許ノ後狩野永徳ト出デ更ニ下リテ二百年許ノ後狩野永徳ト出デ更

哲學

希臘哲學ハ多クノ點ニ於テ近世ノ哲學ニ對シ模範ノ觀ヲ呈スルモノアリ近世ノ哲學ハ動モスレバ神學ノ束縛ヲ脫シ得ズ又ハ之ニ反抗シテ偏僻ニ陷リ易キノ傾向アルニ反シ希臘哲學ハ自由ニ發達シ其ノ研究ノ範圍モ廣ク且ツ其ノ研究ノ方法モ亦タ適當ナリシガ故ニ其ノ結果モ亦タ多クハ正鵠ヲ得タルモノト謂フヲ得ベシ

希臘哲學ノ研究ニ於テ最モ興味アルハ其ノ宇宙觀ノ變遷ナリ

(一)

(二)

(三)

(四)

(五)

(六)

(七)

(八)

(九)

(十)

(十一)

(十二)

(十三)

(十四)

(十五)

(十六)

(十七)

(十八)

(十九)

(二十)

(二十一)

(二十二)

(二十三)

(二十四)

(二十五)

(二十六)

(二十七)

(二十八)

(二十九)

(三十)

(三十一)

(三十二)

(三十三)

(三十四)

(三十五)

(三十六)

(三十七)

(三十八)

(三十九)

(四十)

(四十一)

(四十二)

(四十三)

(四十四)

(四十五)

(四十六)

(四十七)

(四十八)

(四十九)

(五十)

(五十一)

(五十二)

(五十三)

(五十四)

(五十五)

(五十六)

(五十七)

(五十八)

(五十九)

(六十)

(六十一)

(六十二)

(六十三)

(六十四)

(六十五)

(六十六)

(六十七)

(六十八)

(六十九)

(七十)

(七十一)

(七十二)

(七十三)

(七十四)

(七十五)

(七十六)

(七十七)

(七十八)

(七十九)

(八十)

(八十一)

(八十二)

(八十三)

(八十四)

(八十五)

(八十六)

(八十七)

(八十八)

(八十九)

(九十)

(九十一)

(九十二)

(九十三)

(九十四)

(九十五)

(九十六)

(九十七)

(九十八)

(九十九)

(百)

希臘哲學ハ多クノ點ニ於テ近世ノ哲學ニ對シ模範ノ觀ヲ呈スルモノアリ近世ノ哲學ハ動モスレバ神學ノ束縛ヲ脫シ得ズ又ハ之ニ反抗シテ偏僻ニ陷リ易キノ傾向アルニ反シ希臘哲學ハ自由ニ發達シ其ノ研究ノ範圍モ廣ク且ツ其ノ研究ノ方法モ亦タ適當ナリシガ故ニ其ノ結果モ亦タ多クハ正鵠ヲ得タルモノト謂フヲ得ベシ

希臘哲學ノ研究ニ於テ最モ興味アルハ其ノ宇宙觀ノ變遷ナリ

本田校

知ラズシテ為スモノヲ云ヒ又況ヤ直ニ悪ノ要リルヲ知
ルニ於テヲヤ之ヲ為スモノナルヲヤト
ツノ意ヲナス（今ヒ）

(ロ) (ハ)

テ徳ニ反因ヲ求ムルヲ以テ人世究竟ノ目的ハ徳ニ
テ娯楽ハ徳ヲ害スルモノヨリ厭望ヲ絶
チ情慾ヲ滅シ迷ヒ後始テ徳ヲ行ハンコトアリスベシ ハ之ヲ又シ
テ徳ハ即チ幸福ヲ得ルモノ如シ幸福トハ快楽ニ外ナラズ
快楽ハ即チ善ニシテ人世究竟ノ目的快楽ニアル所
謂快楽ト云フモノハ元ト肉体上ノモノヲ云フニアラズシテ（ハ之上）

プラトーノ学説ハ第二ヲ以テナドニ多クノ論理学物理学倫理
学ノ主旨ニ判別モシ難キ程ニシテ其論理学ハ恰モ不定要素ノ本
躰ヲ推究スルモノ物理学ハ不定要素ノ完全ナルモノ
倫理学ハ実践修行ノ善ヲ論究スルモノ即チ此三学ノ部ニ入ルヲ以テ
プラトーノ教学ノ主要ヲ観念ト雖モ中ニ於テ論理学ノ
普通ノ理分殊中ニ於テ特殊ノ理、特殊中ニ於テ全称、

(ロ) (ハ)

一、要動中ニ於テ恒久ノ調ニシテ個々殊特ノ者ハ変遷極リ
無キ一般ニ通ジ一定ノ確定ヲ変ヘ此確定ハ変ノトコロヲ
指ヲテ観念ハ主観ニ解スベク智識ヲ整斉スル先天的ノ理想ト
ミシテ思識ヲ客観ニ解スベク万物ノ
本源ニシテ宇宙ノ実在ヲ整頓スルモノ（今ヒ）
アリストートルハプラトーノ徳即智ノ理ヲ
ニ得ベキヲ高キヲ云テ善良ノ方向ヲ取ラズシテ唯習練ノ功ニ由ル
説キタリト（ハ之上）

アリストートルハ又曰ク凡テ断行ハ如何ニシテ
ヨキ吉ヲ放行為ハ幼ヲ中庸ヲ
今希腊哲学ノ初期ヨリ根拠ヲ
修メタルモノニシテ最初タルベキ物ト
ハ形ハ何ヤノ内駅ヲ完メタリヤニ
知ラサルニカヽス故ニ
不変ト説ク而シテ大又万ヲ

事物ノ本真ヲ知覚スル能ハズ(ク)利鈍セル許ノ分量ト濃度色彩里動等ノ異ナルニ従ヒ同一物ト雖モ種々異様ニ映ズル(例ヘバ新奇ニ感ズル貴ムベキモノハ珍ラシキ感ヲ生ジ屢ミ感ズルモノハ厭フベキ感ヲ生ズル)利鈍ノ習慣(即チ知識ハ相対的ニシテ唯甲ト乙トノ関係ヲ表現スルモノナルガ故ニ)大物体ノ真状ヲ表現スル能ハズ(例ヘバ仏律政治教法輿論教育等ノ要素ニ従ヒ同一事物ト雖モ異ナル許ノ感能ヲ生ズルガ如シ)又表象ノ区々タル孰レヲ是トシ孰レヲ非トスベキカ感ニ曰ク道理ニテ之ヲ要ス(ニト雖モ)道理ハ標準ヲ求メ難シ(ク)且ツ標準ヲ求メ得ルトモ之ガ標準タル道理ヲ定ムルニ方リ一切ノ判断ヲ停止シテ断定ノ容易ニ下シ難キヲ如何セン(今上)

此ヲ用ヒズ蓋シ先ノ観真ヲ唱ヘル輩ハ新プラトー学派ノ懐疑派ノ如キ(ニシテ)事象ノ真偽ヲ判知スル能ハズト為シ(ニ)ヨリ懐疑派ガ道理ヲ全ク否認セル(ニ)反シ道理ヲ基礎トシテ事ヲ処セントスル(ニ)ヨリ(ハ)

智識ニ由ラズ理窟ニ由ラズ妙不測ノ心魂ヲ直ニ悦ビトシテ天機ニ冲シ夢々花々ノ間多楽トシテ得ベキ是レ即真観ヲ以テ(今上)

(ニ)

海翁門教ノ哲学ニ以テ為ス(ノ)世界万物ノ造出ヲ直々造化主宰即大知識ノ支配ヲ而ノ真世界万物ノ造出ヲ直々造化主宰即大知トシテ之ヲ破壊スル(ニ)ヨリ(ハ)神トシテノ一神ヲ護持スル(ニ)ヨリ(ハ)

(ホ)

神ノ理学的基礎

欧州ノ四大真諦トハ一ニ曰ク躯体ノ生ハ仮ニシテ真ニ非ズ二ニ曰ク躯体ハ苦ノ類ニ皆身ヲ刺ス機械ノ如シ三ニ曰ク躯体ハ妄想ト苦患トハ独リ之ヲ免ル能ハズ之ヲ断滅スル(ニ)ヨリ躯体ヲ奈何トモ為シ得ズ四ニ曰ク躯体ハ六根ノ牢獄ニシテ不生不滅ノ域ニ進入スル(ニ)ヨリ(ハ)解脱シテ不生不滅ノ域ニ入ル(ニ)ヨリ(ハ)情欲ヲ断滅シテ我見ヲ掃棄スル(ニ)ヨリ(ハ)

(ヘ)

教学上ノ二大内訌ニ曰ク基督ノ本質ハ有形ト為スカ将ノ自由ノ理ニ循フト為スカ将ノ万物ノ本原ハ有形

大方虚霊ナル力ト為シ哲学ノ元タル絶対ト為ス皆同一ノ本相ノ果ヲ如何ト云ヘル二点ノ中ヲ出ヅルコトヲ(今上)ノ考人ノ数ヘ表ハス何物ナルカ吾人ノ心ノ果ニテ自由ナル力好ク善ト美トヲ求ムル時ノ有形肉体ニテアルカ吾人ノ修ムベカラザル理ニ使役サレルモノナルカ(ロ)純一絶対ノ直理ナルモノハ果ニテ何物ナルカ吾人ノ性能ノ本相ニテ諸学ニテ修ムベキ力ヲ得ルカ之ヲ論理学ノ立案義トナス(ハ)果ニテ何物ナルカ美ナルモノハ由リテ生ズル本原ハ如何ニシテ実学ノ初一無義ナル(ニ)善ハ果ニテ何物ナルカ吾人ノ修ムベキ理ニ従ヒテ行ハルベキ所ノ純一ノ性能ハ果ニテ何物ナルカ夫ノ自然ニ従ヒテ行ハルベキ所ノ快楽ハ果ニテ何物ナルカ吾人ノ最大目的ナル手将タ自由ノ意欲ヲ引キ出ス所ノ元因ハ果ニテ何物ナルカ之ヲ別ケテ目的ト為シ元因ト為スノ二ツ(ホ)神学ノ果義ヲ以テ何物ナルカ是ハ吾人ノ思念中ニ想像スル所ノ信義ナルカ将タ世界実ニ存在スル物ノ本原ナルカ夫ノ造ハレタル自由ノ意欲ヲ見テ善ト為スカ将タ自由ノ意欲ヲ見テ善ト為スカハ直チニ若シ世界ノ本原果ニテ自由ノ意欲ヲ為スカハ直チニ

水田板

世界ノ中ニ存ル主宰ナル力将タ物ハ世界ト別ニテ外ヨリ之ヲ主宰スルカ之ヲ神学ノ力果義トナス以上四(ヘ)形態ハ人目ヲ指ス所ノモノニシテ見ル事ハ果ノ相貌ニシテ外ニ形ナク音ハ人目ヲ指ス所ニシテ有ル形ナク音ハ人目ヲ指ス所ニシテ有ル形ナク音ハ人目ヲ指ス所ニシテ有ル

(い)

もらんこそのなしばなり 要之美術ノ士ノ最モ重ンズベキ、感情ノ真ナルヨリ裏キ ニ莫シ (今上)

純美ノ観ノ説ヲ執ルモノ名ケテ アイディアリズム トイフ物ノ存在ヲ否定シテ 美術ノ正鵠トナスノ義ナリ又単ニ トイフノ義ヲ以テ自家ノ性情ヲ向ケテモノヲ 写実物ニ求ムルヲ務テ

即諸仏ノ特相又所以ナリ
国ニ書ニ同中異アリ故ニ万代万
国ニ書ニ同中異アリ故ニ万代万（ママ）国ニ善ニ非ラズ（今上）
凡ソ物盛極テ衰フルハ免レサル数ナリ美術モ亦然リ美術ノ衰ル
ニ於ケル性情天真ニテ他ノ感セラレス自ラ是ヲ出ス故ニ久ヲ経ルニ従ヒ従前伯説ノ情思漸ク陳腐ニ
属スルニ至リ前人ノ精神ヲ模擬剽窃スルノ弊ヲ生ス其甚キニ至テハ只姑ク形貌ヲ模擬シテ得タリ
トスルノ外ナク（中略）模擬剽窃ノ弊ヲ生ス其甚キニ至テハ只姑ク形貌ヲ模擬シテ得タリ
トスルノ外ナク（中略）人ヲシテ厭倦ノ情ヲ発セシムルニ至ル是美術衰微ノ
原因ナリ（今上）
始メテ叶ヒ始メテ行ハル而シテ

チなりけり。（今上）

プラトーノ云ヘル人ノまゐ式世ニ降ル先ヤ生ヲ天堂ニ得ヲ再ビ
ノ織アラバ精魂遊離シテ江ヲ生ヲ居シ一汚塵ノ其停身
ヲ施スアラバ直ニ新潤美ノ形
然ニ物ノ美ヲ知ル、蓋シ直ノ思
時ヲ汎膳スルニ由ルテリトヲ
人智ノ日々ニ進ラヒテ人心ニ作用アラヒ常ニ却テ
止マルヲ知ラノミニ作用ハ、事物意思ヲ剥分スルノ作用ト
模拟シ、作用是ナリ。（今上）

（美）　（心）　（三）

物ノ声音ニ擬シテ言語ヲ作リ形象ニ擬シテ文字ヲ製シ江テ日用ノ
一切トヤラヤや而シテ人趣ヲ永倉ス獣
ト同シノ直動ヲノミキ。已ニ其身ニ感ズルモ！叫呼シテ声ヲ
発スルト手足舞面ヲ動カシテ其容ヲ変ズルトヲ声ヲ発スル即
音ヲ律スルノ本ヲ容ヲ動カス即象ヲ製スルノ本ヲ也ニ於
テカ知ル言語ト声舞ト体容ト、親美ノ術ノ起ル所以、後世技藝
ノ根本ヲヲヲ。（今上）

詩歌音楽絵画彫刻ノ類、皆感物ノ美ニ感シテ因リテ之ヲ模擬
スルニ起ルモノナリ。上ニ云ヘル人、文字言語モ亦外物ノ声音形色ヲ
シテヲヲ模擬セルモノナリト云ヘルニ考治ト同ク即夫ノ言語
文字ガ声音ニ擬シ能ク能ク形象ニ擬スル詩歌音楽絵画彫刻ト
ヲヲテ不同ナルニ非ズ。然レドモ人事復雑トナリ智巧進ムニ従ヒ模擬ノ言
語文字モ亦横擬ヲ章句ニ進テ之ヲ模擬ノ性ヲ進メ、達意ヲ主トスルガ故ニ為
ニ（今上）

美術ヲ二別シテ目ヲ感ズルモノト耳ヲ感ズルモノトス。目ヲ感ズルモノハ
ハ運動ト声調ト序進トヲ目ヲ感ズルモノ要性
リ止音ト分因ヲ以テ元ヅ
目ノ美術ハ言語ノ列ズルモノ
○舞踏モ亦此類ニ入ル。然ニ舞ハ動ト運動、声調、序進、
目ノ美術ハ文字ノ列ズルモノト異ナルモノナリ。答ガ目ヲ悦ス
ルモノハ彫刻絵画ハ順序、平均、止音
○建築モ亦此類ニ入ル。然ニ此ハ物自性ヲ異ニスルモノナリ

り神経ノ鼓動ニテ感ゼラルヽ程ノ微弱ナル刺戟ニテモ直ニ感覚ヲ生ジ又ソノ刺戟ヲ取去ルトキハ直ニ消滅スルヲ以テ見レバ感覚ハ全ク神経ノ興奮ニ外ナラズ(今上)

(拾)

有形ノ二者ハ共ニ客観的ニ存在スルモノニシテ無形ノ夢幻ハ主観的ニ存在スルモノナリト雖モ今ノ境ヨリ正確ナル覚醒ノ境ニ入ルトキハ又昨日ノ夢幻ノ境ハ全ク虚偽ナリシト感ズルガ如ク今ノ覚醒ノ境モ亦タ他日ノ覚醒ノ境ニ入ルトキハ又昨日ノ夢幻ノ境ノ如ク虚偽ナリシト感ズルヤモ知ルベカラズ(今上)

(十一)

故ニ有形ノ二者ト無形ノ夢幻トヲ区別シテ前者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ後者ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(十二)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(十三)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(十四)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(十五)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(十六)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(十七)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(十八)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(十九)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(二十)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(二十一)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(二十二)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(二十三)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(二十四)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(二十五)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(二十六)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(二十七)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(二十八)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(二十九)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(三十)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(三十一)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(三十二)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(三十三)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(三十四)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(三十五)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(三十六)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(三十七)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(三十八)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(三十九)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(四十)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(四十一)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(四十二)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(四十三)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(四十四)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(四十五)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(四十六)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(四十七)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(四十八)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(四十九)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(五十)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(五十一)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(五十二)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(五十三)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(五十四)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(五十五)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(五十六)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(五十七)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(五十八)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(五十九)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(六十)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(六十一)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(六十二)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(六十三)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(六十四)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(六十五)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(六十六)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(六十七)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(六十八)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(六十九)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(七十)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(七十一)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(七十二)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(七十三)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(七十四)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(七十五)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(七十六)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(七十七)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(七十八)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(七十九)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(八十)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(八十一)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(八十二)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(八十三)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(八十四)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(八十五)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(八十六)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(八十七)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(八十八)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(八十九)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(九十)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(九十一)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(九十二)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(九十三)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(九十四)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(九十五)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(九十六)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(九十七)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(九十八)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(九十九)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(百)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(百一)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(百二)

然ラバ則チ吾人ノ感覚ニ於テ然ク感ズルノ故ヲ以テ有形ノ二者ヲ正確ナル覚醒ノ境トシ無形ノ夢幻ヲ不正確ナル覚醒ノ境トスルハ固ヨリ別ニ証拠アルニ非ズシテ単ニ吾人ノ感覚ノ上ニ於テ然ク感ズルニ過ギズ(今上)

(百三)

然ラバ則チ吾人

(欠)

四ノ列高ト ヨいきょう ホラス マレデゥム (ビクム こん
スペンサー ノ始キ比較ノ学者ナリシ (柳沢政太郎ノ倫理学)
近世哲学史ニ於ケル実在ノ学ヲ主唱スルモノハ ベーコン ロック ヒューム
疑ノ説ヲ唱道スルモノハ ホッブス スピノーザ、ライプニッツ ノ輩ナリ
到リテハ又テノ学ヲ一吾シタリ カント カ復起ス
勝脈ノ中ニ ここテ唯心論ノ種子ヲ胚胎 こ来リ之ヲ培養
セシモノハ フィヒテ ナリ之発達 ヒこテ
深ク之ヲ組織シ こんもノハヘーゲル ナリシガ
殊ニ所ノ真論 (弁証法) 即チ
アルテシスノ哲学ヲ今ノ如ク
倫理ニ応用シテ天下ノ舌ヲ一吾セシモノハ
ヘルバルト ナリ
(欠)

(十一)

変成セシ 真実ノ可能性及ビ
ニテ是等能力ガ各個人ニ於テ如何ニ
非歴史的ノ文華ノ論ノ
性ヲ惜ム 目ニテ化成セシモノ即チ
ノ境遇 及社会ノ事情ニ応ジテ進化シ来ルモノト思惟シ能ハザル
ヲ直ニ完備セル理性ト看做シ彼等ガ理性ト称スル抽象的形式ノ
合理性ヲバ始メ人類ニ存スル
古今同一ニシテ有ラユル仮定ニ従テ
或ハ全国ノ政治 或ハ政家ノ政策
或ハ宗教ノ起源ヲモ非自然的ニ解シ
又通俗倫理ノ如キ自由神授ノ
宗教ノ起源ヲ論ゼニ絆物論ノ
ガ神ヲ信ズルノ心ヲ起ラシムル人為ニ帰スルニ至リシモ
(欠)

而テルニヨリテニヤ彼等ガ理学論ト絆物論者ノ人類
物体中最活潑高尚ナルモノト
進ヲ為ス事物ノ現象ノ原因ヲ知ラントスルノ傾
許ス限リ理学ニ帰シ之ヲ説キ去リ又ハ
絆物論ニ至リテハ絆霊論者ノ
ノ為ニ直接ニ物ニ一種

ノ治乃ヘ又ハ治ムル人ノ自身ヲ拝スルニアラズ直ニ物ノ像
キヲ拝スルガ如キニ申シテモ知ルベキモ即チ
拝物ノ前ニ矣ノ如感ジ的ノ直々不可思議ノ能力ノ在在
スルヲ知ルニサルガ故ニ然カラサルガ故ニ拝霊ガ始メテト雖モ
猶和ム人ノ乗ヲ見ノ為キニ泣キ拝物ヲ表（傍キニ
泣キタリ）（八二上）

人類ガ神ヲ信ズルニ至リシ所以ハ万有ノ現象ガ太古人ニ畏ヘ
感得ト是ニ従テ彼等ニ発揮シタル勢力ト実際的ノ関係ヲ有シ
ツヽアリシヨリ起リ来レルモノナリ（八二下）

心トヨリノ審美学ハ結象現想ヲ立テ世ノ所謂実際派ヲ已ガ系
中ノ得タリ彼ノ美ノ主観情ノヨリ指シテ想トシ美ノ客観
ヲ指ス此相トスルヲ排シテ主客両観想ヲ立ツサレバ各学者
ノ此ヲ生ゼキ美ノ義ハ即美ノ主観想ト、美ノ主観想
ト共ニ美ノ客観想立ツベシ抽象美（類想）ヲ本旨トスル旧現
想家ノ排シテ結象美（個想）ヲ拉致シタル新現想家ニ外ナラズ

木田校

（神）（美）

【設理想論者神想即ち抽象現想、家現想ハ類想、ト略ス設理想論者ノ治ヲ引用ト称スモノ即チ造化ノ力ノ行ル神振リ小天地想ト増ツヽトラシ記月付也】

【主観もシ客観トハ意識生ジタル後ノ事ノニ意識界ノ事ノニ現意識界ニ立ツモシ】

詩ニ治ル者別相ハ個物的ニアラズ治平宇相（因果自然ノ現ノ行ル相）ハ理法的ニアラズ個想ナリ個物的ニシテ個想ナリ又ハ理法的ニシテ個想ナリ又ハ個物的ニモアラズ理法的ニモアラズ其ハ個物ノ実ヲ模造シタルニアラズ個物ノ実ノ模造ニアラズ其ハ物力（天地万物ノ主ニ行ル勢力ノ）ハ実ニアラズ物力ノ実ノ模作ニアラズシテハ心トヨリノ藝術ヲ模倣ノ仮組ニ過ギズ又ハ藝術ノ上ニ個物実ノ模造ヲ立テ、物力ノ実ノ模作ヲ立テスルニアラズ個想ヲ立ツ故ニ天地想ヲ立ツ彼ガ美ハ皆想ニシテ実ニアラズ実ニアラズ相実相ト追ヒ行ケバ其ハ個物ノ実ニアラズ色モ色ニアラズ（色ヤ声ヤ且実相ヲ究メテ彼ノ究メテ杜徹ニ達シ人間ノ官能ヲ降キ去ラズ色ハ本色ニアラズ声モ色モ舎テ実相天声モナク色モナシ又仮リニ人間ノ官能ガ聴ケル人間ノ官能ヲ降キサマノ相ヲ究メシ純粋ナル実相天声モナク色モナシ舎テ舎テ舎テ舎テ是色ナリトイフトモ之ヲ意識界ノ色声ノ美醜ヲ以テ色ヲ執ス心ヲ去リ来レル心ヲ以テ決断セヨ其声色ノ美ニ感ジ先天的ノ事ヲ以テ声美ヲトハ耳ヲ聞ケバ声ガ有メニ感ジラレ眼ヲ視ルガ有メニ感ジラレ生ル天ノ理想ハ

ん論こゝからゞコノ主観想ん論こゝからん第三論如ゞ起ろん蓋
レ主観ノ美ヲ生ズル作者ノ上ニ限レリ吟者読者ハ已ガ官能ニヨーテ
客観實在ノ字形若クハ声波ヲ受ケ此ノ時ニヨーテ客観想ん詩ノ美
ハカノ客観実在ノ字形若クハ声波ニ助キテ吟者及ビ読者ヲ侵スヿ外
美術品ニ客観実在ノ字形若クハ声波ニ助キテ吟者及ビ読者ヲ侵スヿ外
生ゼル美ヲ外美術品ニ移シ置キん為メニ外美術品ハ吟者読者
ニ美ん空想圖ヲ現ゼシムベキ因縁トナリ、美ハ実ニゞ迄モ実ニ即
クニヨーテハ主観ニ入ル能ゞ、且実ニ即ヨリ離レヿん美ノ映象トイフ、之ヲ先天ニヨーテ実ヲ立テん論ト
ナス、江上ヲ離テ論ゼントイフ時ハ、稗キ立実論ハ活ル般若ノ如ク先天立実論ハ活ル但シ造化ノ
観想論ハ般若ノ如ク先天立実論ハ活ル但シ造化ノ
上ニ於テさつ時ハ、阿含ノ有ト般若ノ空トヲ性ニ非ズ非有ニ非
ムル聖教量（絶対ノ把ニ立ツ大度量ナリ）ニ待ツアリト宏モ審美学ノ
美世界ノ上ニ於テハ心トシノ比量（相対ノ他ニ立ツ度量ナリ）猶ホ能ノ
立実ノ主観想ノ二論ヲ調和シ得ル余ん（柵草紙九七、三ヶ）
天地ヤ人間ヤ一切宇宙ノ事ヲ思議スル理想ト謂フモノアリ然モ
ハ是レ

ナリ時時中ノ躍リ出ヅル小声美ナリト叫ブヿ之ヲ是
ヲ感納性ノ上ノ理想トナス又意識中ニテ声ヲ調ベテ楽トナシ
色ヲ施シテ画トナスヿ亦サルモノ方ニ
来即無意識ノ境ヨリ来ル之ヲ是ヲ製作ナリト理想ト謂
ナス）実相已ニ斬ノ如クバ之ヲ模倣シタルモノ将タ何ノ声ヲ
ニ何ノ色ヲ書セヤ之ヲハルトマルが稗ノ実ヲ立ツルノ浄者ヲ破
ズルノ意トナス」美已ニ実ニゞトイフ説ニゞ
甚ラム詩人ノ詩ヲ空想裏ニ得来ラヿヲ客観ニ移リテ止マヤ（外美術品）若シ美ノ主観ニヨーテイフ是ノ如ク
外美術品ヲ作ル時ニ及ンデ遂ニ解ニヨラゞ今一歩ヲ進メテ、カノ外美術品ノ
吟者読者ニ主観ノ美ヲ感得セシムベキ因ニヨリ何ゾ美ヲ主観ニヨーテ
ズ浄イヨ〳〵究セム又作者ハ嚢ヲ開ヲ詩ヲ成シ之ヲ吟シ之
ヲ誦スルモノハ皆一斉ニ同ジク主観ヲナスヿ一瞬間ヲ出デズトセバ作者ノ難
ト吟者読者ノ易トノ合心ニ所以ハ到底美ヲ主観ニヨーテスルモノハ得テ
解ズル所ニヨラズ之ヲ主観想ニ偏リ外美術品ヲ破ズル論ヲ破ズル段トス」美既ニ
実ニヨラゞ又実ノ模倣ニヨラゞ又主観想ニヨラズトイフ如ノ稗ノ実ヲ立テ

個人が哲学上ノ所見ヲ以テスレバ何人ノ哲学
上ノ所見ニ比量智（憑拠ノ商量ニテ得タモノニ過カ）ヲ如何ナル楽天ノ詩モ厭
世ノ詩モ一タビ思議ニ訴ヘ直覚ニテ得タモノカ）ヲ如何ナル楽天ノ詩モ厭
既ニ詩ヲ認メテ思議ヲ経ヘカラヌモノトスレバ現量ヲ知生ノモノトスル件
ハ作者ノ哲学上所見ニ到底明白ニ其詩中ニ見ユル訳ニ
理由ヲ一切ノ詩興ヲ海世ヲ悲ミ観ズルハ哲学上ノ厭世主義ヲ謳ヒ楽天主義ヲ謳ヒ
厭世乍天ナドノ主義ヲ明白ニ示ス為ニ用法ニ解釈ヲ附ケ
示ス為ニ用法ニ解釈ヲ附ケ
ルヘカラズ其用法ノ代リニハ他ノ意味ニ使フ

詩人ノ主觀
劇曲

見ユル者ノ生ヒ立チヲ悲哀ノ実感ニ富ムルモノハ重審美感ノ中ニ厭世ノ情ヲ見ユルヲ以テ作者ノ主觀トスル」ト能觀ノ情ト云フニ相出入シテ而シテ止ニ赴出セルモノ成就シ詩ヲ劇曲トイフ。ハルトマン曰ク劇曲ノ作者ハ全ク個人ノ主觀（能感）ヲ遠離シテ深ク曲中人物ノ主觀ニ潜メリ個人ノ主觀ノ時アリテ曲中人物ノ主觀ニ入ルコトアルハ意識セル人ニシテモ流入スルヲ以テナリ故ニ詩中ニモ劇曲ニモ客觀ノ分子アリ作ル者ニ臨ミテ動カシ難キモノニアラズ故ニセークスピアカ曲ニモークスピアトイフ個人ノ主觀ノアラハレヲ見ルヿ能ハズ唯々曲ノ妙處ニ過ギズ」或ハ主觀ヲ指シテ客觀ヲ解シテ私情ヲ直現感情ヲ平生ノ記憶ト雖難等ノ如キ狹隘ナル利害ナドヲ離レ感ハ公情ヲ再現シ主觀ノ影ヲ映畫ナリ傑作中ノ哀悼感憂慨世等ノ如ク小利害ヲ脫セルモノナリ

木田板

審美感ノ主觀

「約束ノ前納トハ他日其事ノ実際ニ際會セシトキ思ヒヤリテ起ス情ノ謂ナラン歟」

ト雖モノアリ近代我見ニ於テスレバ論者ノ所謂主觀ハ審美感ニアラズシテ實感ナリ美人ノ畫ニ對スル人ノ情ハ審美的感ナリ詩ハ實感ナリ唯ニ感納性ノ上ノミナラズ製作性ノ上ヨリ論ジ得ベキ難事ナリ詩ノ作ハ平生ノ記憶勢誦諷詠ノ際ニ於テ感ヲ分情トイフガ如リ又剛ヲ得テキモノニアラズ又其実感ヲ直現ナリトイヒ審美感ヲ再現セリトイフハ実感ハ実ニ違テ直ニ起ル審美感ハ心トマンノ所謂約束ノ前納ヲ以テ見テ立テタル區別ナシ況ヤ審美感ハ思議シテ起スモノニアラズシテ美人ノ畫ニ對シテ起ス審美感ハ話キタル美人ニ違ヒタラン際ニ起スキ実感ノ約束ノ前納ト着做サルヽヲ得ンヤ而ルテ感ヲ喚ニ起シテ此ノ如キ前納感ヲ為スヘク、又ハ知ラヌ小羊ハ已ガ本能ヲ以テ役シテ窓トイフモノハカクアルヘシト思慮シテ遺ヲ為スニ非ズ、サレバ

或論者ノ（主觀ヨリ）我情ヲ主トシ直現感情トイヒ（主觀）トイヒ再現感情トイヘルモノ人ノ實美感ヨリ我ヲ詩ヲ論ズルヤ常ニ詩人ノ實感ヨリ遠ザカリ（客觀）ノ實美感ヨリ我ヲ詩ヲ論ズルヤ常ニ詩人ノ實感ヨリ遠ザカリ（客觀）ノ實美感ヨリ遠ザカ

(美心)
美感ノ快味ガ絶頂ニ達シテ(今上)
味ノ至極ニテ深ク且ツ不快ノ感ト無キ状態
又美ノ快感ヲ起ス心ノ実用ヲ脱
離シ始モ小児ノ快楽ヲ追フノ状態トナリ他ガ幸ニ実用ノ
範囲ヲ離レ得ズシテ又之ヲ追ヒ
能ヲ以テセヌヲ得ザルト大ニ
美感ニ受働的ノ他ノ感ノ発動的ノ
ヲ没了セル他ノ感ノ下ニ夕ダ
ニ自然的ノ身体的ノ情感ヲ起スモノヨリ
ズ之レ実際的人物ガ美感ヲ起シ得ザルト(今上)
美ノ快感ニ心ヲ純粋ナルモノニシテ
シ美感ノ官能ガ目ト耳トニ許リテ得ルモノナル故ニ
官ニ他ノ味官嗅官ナドニ比シテ
ヲ持ニ目ノ如キ不快感ヲ起スコト難キヲ
(今)
又美ノ快感ニモ永続的ノ性質ヲ有スルモノヨリ之レ一ニ
ハ共ニ不快感ニ応ズル甚キ故ニ
ノ高尚ナルモ之ヲ
ヲ得従ヲ多人数同好ノ之ヲ娯
唯公手的ナル故ニ美ノ快感ハ
キヲヤシ又(消)ニモ美感ニ
者会ノ体ヲ成ス明カ
ヤリ嫉妬ニ他人ノ私ニ
トノ欲望トヲ
人ニ之ニヨリ得ス従ヲ嫉
私ヲ純粋ナル美感ノ上ニ

水田板

(1) Material element
(2) Formal "
(3) ideal "

(急)　(松)

美感ノ三元素ハ(1)対境ノ各性質、ニ
面目サノ如キ(2)対境ニ対スル連想之ナリ和
(3)対境ニ対スル連想之ナリ和ト調和ノ具合
這ノ一者ノ内格ノ元素ナリ也
外ナラズ精神自発ノ美ニ対スル人ノ美ノ感ノ一層強キハ
之ヲ言ヒ換フレバ美ノ一層ニ深キ
ソレノ内情ヲ了美感ノ中ニ
美ヲ勢称スルニ至ルナリ故ニ特ニ人ノ
感ニ訴フル術ノ美ノ感ニ比較スレバ
勢ノ美ヲ感ニ近ク代ノ人ガ自然ノ美ヲ信ジ
勢スルニ非ズシテ知ルニ但シ近代ノ美ヲ信ジ
突ノ美ヲ感ル事大ナル注入ニ基リソレモノヲ彼事ニ自
可思議物ノ製作ヒニモノトシテ観スルカ故ニ一層甚シク
感服スルナリ(全上)
天下ノ真理ハ極メテ達スル所ニ非ズ不可知ノ境界ヲ未経ノ境界
ヨリ而シテ直ニ未経不可知ノ境界ノ存スル限リ人間ニ宗教
心ノ絶ユル時ナルベシ宗教ノ特長ノ実ニ此経験界ニ上ノ超自

水田校

(美)　(心)　(1)

ニ立脚ノ地ヲ置ケリ(全上)
宗教ハ永久ノ事実ヲ含ム科学ハ(ダーウィンの教学原理)
全然反対ノ地ニアル学ナリト科学ハ到底
ヲ一致セザルベカラザル二者ノ調和一致ヲ
美観念ヲ死ハ観念ノ滅スルヲ
極メモノ即主観的ノ看念ト一般普通ノモノ即客観的看念ト
ニヲ我身体ト共ニ発生スル記憶ノ感情トカノ如キハ主観
的ノモノヲ我眼前ノ山川ヤ草木ヤニ於スルモノハ客観的
ノモノヲ即チ「ホノ人ハ明カニ主観的
ヲ而シテ所謂死ナルモノハ此主観的ノ観念ノ蓄
客観的観念ニ至リテハ万古不滅ノ観念ヲ成セリ
ルヲ支那ニ魂ノ別ヲ
ノナラントシ(お雑誌え良事之助)
代トマン曰ク美ハ思想ノ中ニ能ク独立脚地ヲ占ル存及ビ
目的ヲ有ル所ノ解ル愛ニ外ナラズ Beauty is the
of appearance in accordance with an own ground and pur—

Nature is absolutely logical, and therefore beautiful throughout.

(美)

ヲ以テ因果必然ノ大則ニ基目的トスル(勿論無意識的ニ)所ノ
寧ロ天地万象ヲ現出スルヿアル(ソノ如キ)芸術家ガ其目的トスル
ハ理想ノ現ヲ美ヲ現セントスルニアル(ソノ如キ)ヿヲ直チニ美ヲ現セントスルカ如ク
換言スレバ美ハ結果ナルニ目的ニアラズシテ却ッテ必竟天地万象
ハ元来絶対的ニ理想的ナルモノ故従テ微看尾美ヲ発揮スル
ヿハ素ヨリ偶挙セントスレバ凡眼ニテ調和ノ極メテ見難キ美ヲ
引離シテ醜ナル外ナシ吾人ハ例ヘバ一ノ彫刻像ヲ現ハスニ当リ
主意ハ形体ノ格言ヲ思フ(ソノ格言ハ勿論芸術ノ)
ソノ目的ヲ達スル為メニ全体ノ大調和ニ安ンジ又形
式ノ美ヲ現ハスヿヲ以テ主意トシ従テ標準トナスヘキモ結果
ハ却テ一層深キ吉妙ナル美ノ調和ヲ保チ(今上)

(ハ)

ハ自然ニ純粋ノ醜ナル
カ美ヲ現セントセサルニ非ス醜現ハ
ト即チ先天ノ理想ガ美ヲ
テ自然界ニ美醜ヲ現ヲ
脱シテ曰ク先天(即生化)ハ本来無意識ナリ之ヲ一層
ルモハ因果ノ大則ニテ先天ガ自然ノ意志ニ
或ハ美ヲ現セントセス或ハ之ヲ破ラント
ヿアリ(今上)

(ロ)

ノ断片美ノ全一ノ実ニ
リ美ハ真理ヲ感覚又
トモ(ソノ美学史)
ハルトマンハ美ヲ結晶的ノエート形式的ノモノト
ノモハ更ニ分レテ
信ジテ疑ハサルヿヲ
進メテ結晶美ニ
化現スルヿニテ
美現象ナルヿ(今上)
カ美ヲ現セント志ス
ト即チ先天ノ理想
テ自然界ニ美醜ヲ
脱シテ曰ク先天(即生化)ハ本来無意識ナリ之ヲ一層
ルモハ因果ノ大則ニテ先天ガ自然ノ意志ニ
或ハ美ヲ現セントセス或ハ之ヲ破ラント
ヿアリ(今上)

(ハルトマンノ曰ノ如ク鈍合ニハ補[illegible]全調ノ大調和ニ安ンジ又形式ノ美ヲ現ハスヿヲ以テ主意トシ従テ標準トナスヘキモ結果ハ却テ一層深キ吉妙ナル美ノ調和ヲ保チ(今上)

(ロ)

ノ断片美ノ全一ノ実ニ
リ美ハ真理ヲ感覚又
トモ(ソノ美学史)
ハルトマンハ美ヲ結晶的ノエート形式的ノモノト二別チ形式的
ノモハ更ニ分レテ
信ジテ疑ハサルヿヲ
進メテ結晶美ニ
化現スルヿニテ
美現象ナルヿ(今上)

(ハ)

ハルトマンハ自然ニ純粋ノ醜ナル
カ美ヲ現セントセス或ハ醜現ハ
ト即チ先天ノ理想ガ美ヲ
テ自然界ニ美醜ヲ現ヲ
脱シテ曰ク先天(即生化)ハ本来無意識ナリ之ヲ一層
ルモハ因果ノ大則ニテ先天ガ自然ノ意志ニ
或ハ美ヲ現セントセス或ハ之ヲ破ラント
ヿアリ(今上)

(ロ)

ノ断片美ノ全一ノ実ニ
リ美ハ真理ヲ感覚又
トモ(ソノ美学史)
ハルトマンハ美ヲ結晶的ノエート形式的ノモノト二別チ形式的
ノモハ更ニ分レテ
信ジテ疑ハサルヿヲ
進メテ結晶美ニ
化現スルヿニテ
美現象ナルヿ(今上)

(ハ)

ハルトマンハ自然ニ純粋ノ醜ナル
カ美ヲ現セントセス或ハ醜現ハ
ト即チ先天ノ理想ガ美ヲ
テ自然界ニ美醜ヲ現ヲ
脱シテ曰ク先天(即生化)ハ本来無意識ナリ之ヲ一層
ルモハ因果ノ大則ニテ先天ガ自然ノ意志ニ
或ハ美ヲ現セントセス或ハ之ヲ破ラント
ヿアリ(今上)

(ロ)

ノ断片美ノ全一ノ実ニ
リ美ハ真理ヲ感覚又
トモ(ソノ美学史)
ハルトマンハ美ヲ結晶的ノエート形式的ノモノト二別チ形式的
ノモハ更ニ分レテ
信ジテ疑ハサルヿヲ
進メテ結晶美ニ
化現スルヿニテ
美現象ナルヿ(今上)

(ハ)

ハルトマンハ自然ニ純粋ノ醜ナル
カ美ヲ現セントセス或ハ醜現ハ
ト即チ先天ノ理想ガ美ヲ
テ自然界ニ美醜ヲ現ヲ
脱シテ曰ク先天(即生化)ハ本来無意識ナリ之ヲ一層
ルモハ因果ノ大則ニテ先天ガ自然ノ意志ニ
或ハ美ヲ現セントセス或ハ之ヲ破ラント
ヿアリ(今上)

きゞ又軍ダ音セノ流暢ナルノミノ事ハ大意概ネ変ナシ又人物ノ高尚ナ特性ノミノ一致ニテハ個相ノ美ハ発揮セラレサル結局美ノ階段ノ高ク低キニ従テ下段ノ美ヲ一々別ニ見ルヨリハ寧ロ之ヲ一統シ一大美ヲ見ルヤウニシテ却テ醜ノ分子アリテ他ト対照ノ妙ヲ現シテ全幅ノ美ヲ全ウスルヤウナモノヲハ之ヲ美ヲ統ムノセントトナス之ニ反シ醜ノ分子ノ多キ程其ニ組立テラレタル美ハ個相的ノモノ即チ完全ノ美ニ近ク美ノ如要分子トシテ存在スルヲ以テ本来調和的ノ醜分子ハ天地ニ不合理的不調和的ト見ル人ノ外ハ醜ヲ一切ノ美ガ征服スルヲ以テ或ハ愉快的ノ美トナリ或ハ愉快的或ハ悲壮的或ハ好笑的ノ美トナリ（村井）

水田板

(1)

不調和ノ醜ヲ以テ消極的ノ不調和ト為シ又人物ノ不調和

Arts
- Unfree arts — (architecture &c)
- Free arts
  - arts of perception
    - objective
    - subjective
    - subjective-objective
  - arts of Fancy
    - objective
    - subjective
    - subjective-objective

ニエラ直ノ美ノ乳母ニシテ自由術ヲカニ二方ニテ知覚ノ術ト想像ノ術トナシ更ニ若三方ニテ客看的、主看的、兼客看的ト為セリ之ヲ知覚的美術ニ当テ言ハヽ静ノ術、変ノ術、動ノ術、ヒ言フベク耳ノ覿、眼ノ覿、的、時的、ヒ言フベク耳ノ覿、眼ノ覿、的、ヒ言フベク空間的、ヒ言フベク耳眼ノ覿ニアラザルモノヒ言フベク更ニ想象ノ術ニ当テ言ハヽ言ハヽ静ノ術、変ノ術、動ノ術、ヒ言フベク空間的、ヒ言フベク耳ノ覿、眼ノ覿、

相補フテ完全ニ近キモノガ出ルデアラウト云フノガ右ノ述ベタ処ヲ表示スレバ

美術
- 自由術
  - 空想的美術
    - 客看的（眼ニ訴フルモノ）――繪画、彫刻
    - 主看的（耳ニ訴フルモノ）――音楽
    - 主客看的（二者ヲ合スルモノ）――舞踏
  - 知覚的美術
    - 客看的（眼ヲ主トスルモノ）――叙事詩
    - 主看的（耳ヲ主トスルモノ）――抒情詩
    - 主客看的（二者平等）――戯曲
- 羈絆術（建築ヨリ下ノ諸術）

音楽ハ美術的作物ニ在テハ最モ後ニ出デタモノデアル、ソレハ他ノ二者ニ比シテ放タレタル心ノ方面ト謂フベキモノデアルカラデアル、ソレデ音楽ハ天然ノ現象ノ模倣ヲ主トシ、則チ寓スルト同様ニ人工美術ノ外ニ立ツテ作者ノ理想ヲ現ハシ得ル極メテ不羈ノ境界ニアルモノデアル

水田板

実用トノ為メニ羈絆ニ制セラレタル限リノ美術的作物即チ建築ノ権化タルベキ作物ニ於テモ理想ヲ包含スベキハ勿論デアル（今上）

所含ト形ト、相伴フテ離レヌモノデアルガ故ニ縦令建築其他ノ美術ニ於テモ亦タ右ノモノト形ヲ異ニスルトコロガアルニセヨ所含ガ如何ニシテ其当ヲ得ルカ否ヤハ常ニ形ヲ有スル作物ニ入リ得ルト云フ事ニ限リハ所含ノ発揮セラルル点ニ於テ非ザル美術トシテ所謂美術的作物ニ入リ得ルト云フ事ニ限リハ其作物ノ形ヲ想フニ足ル様ニ発表スルノ傾キアルヨリ換言スレバ美術的作物ノ形ハ事情ノ許ス限リハ想所含ノ如ク其所含ニ相応スル形ガ出ヅルヨリモ所含ニ相応スル形ガ出ヅル様作ル上ニ於テ自己ニ快ヲ与フル様ニ作ルヲ常トスルガ故ニ自然ヲ謳和スルヲ以テ美術上ニ発揮セラルル所含ハ又自我ヨリ来ルモノトイフヨリモ寧ロ自然ノ心神相応シテ一心ヲ乱ニセヌ

史學

作心持、[redacted]或ハ祖野ハ園芸萬、[redacted]海岸ノ
香ニアテラレテ醉トハナラヌ(今上)

史學

帝國大學ニ於ケル史學ノ講義ハ、其ノ國體ニ基キ、國史ヲ以テ主トシ、東洋史ハ之ニ關聯スル限リニ於テ、又西洋史ハ、歐洲ノ國民的發達ニ關スル限リニ於テ、之ヲ講ズルノ方針ヲ採レリ。

史學ノ研究ニ關シテハ、從來學術ノ國民的發達ニ關スル研究ヲ重ンジ、國體ノ觀念ヲ明ニスルヲ以テ、最モ緊要ナリトシ、此ノ點ニ於テ、羅馬ノ學術、文藝ノ如キハ、之ヲ研究スルノ必要ヲ認メズ、又羅馬ノ法律ニ關シテハ

ヒテ高遠高嶺丸神代記ヲ題目トスルノ風アリシカ近世ニ至リ
学術ノ風一変シテ実験ニ近キメルトヲ以テ一変シテ甲巻
甲巻ノ事ヲ記シ乾ヲ主心ニ置ク所ヲ擇取シテ且意趣ヲ寓ス
ルニ至レリ云々（中巻ヨリ神代巻字）
英ノ刊ノ古来人ノ手記ニ害ヲナスモノアリ（訂）
信仰ニ英術者ハ、ヲ之ヲ進有ノ理ヲ伝ヲ知ラシテ（訂）
神五政治的僻見ヲ去ル事的僻見
ナリシ（早稲田文学美津部）

水田校